

カリキュラム・マネジメントの手引き

資質・能力育成に向けたリアルな学習デザイン実現の処方箋
福岡教育大学附属小倉中学校

令和元～2年度 文部科学省

【これからの時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究】

SDGs を目指した教育活動の一環として、本冊子は、八幡東田「紙の循環から始まる地域共創プロジェクト」実証実験により、学校から出た古紙をエプソン製の乾式オフィス製紙機「PaperLab(ペーパーラボ)」で再生した用紙を使用しています。

また、印刷・製本は、障がい福祉サービス事務所；NPO 法人わくわーくに依頼したものです。

令和元～2年度 文部科学省

【これからの時代に求められる資質・能力を育む

カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究】

カリキュラム・マネジメントの手引き

-資質・能力育成に向けたリアルな学習デザイン実現の処方箋-

はじめに

この「カリキュラム・マネジメントの手引き」は、令和元年度～2年度、文部科学省による委託事業【これからの時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究】の本校としてのささやかな成果報告です。本事業を受託し、本校が2年間、いえ、その前年、平成30年度の「道徳科を核としたカリキュラム・マネジメント」の研究も含めると3年間にわたり、試行錯誤してきた苦難の実践研究の記録をまとめたものです。

教科担任制をとる中学校では、教科内の「縦」の系統は意識できても、教科等横断という「横」の連携はなかなか難しいのが現実ではなかったでしょうか。それは本校も例外ではありませんでした。

本校ではこれまで、「各教科等の本質とは何か？どうすれば実現できるか？」を問いつつ、実践的研究を進めてきました。しかし、おそらく日本の教育史上でも歴史的なものとなるであろう「資質・能力育成を目指す今次改訂において、これまでの研究蓄積を生かしつつ、新たな一步を踏み出すにはどんな研究が必要か？」という新たな課題に直面しました。そして、本研究に着手したのです。

時あたかも、新型コロナウイルスの猛威に苛まれ、オンライン授業や授業時数の確保など、平時のカリキュラムでは対応できない状況が生まれてしまう事態となりました。激震の走った教育界ですが、我々としては、「だからこそカリキュラム・マネジメントの出番だ！」と言い聞かせ、実践研究の歩を進めてきたところです。

本手引きには副題として、「資質・能力の育成に向けたリアルな学習デザイン実現の処方箋」という、やや気取ったタイトルを付けています。「リアルな」という修飾語は、「学習デザイン」に、そして「処方箋」に、といずれにも係っています。これは様々な学校でのダイナミックな教育の実現と、そのために子ども達に相對する先生方へのささやかな助けとなるように、との願いを込めたものです。是非、多くの学校・多くの先生方の目に触れ、中学校での(もちろん小学校や高等学校でも)カリキュラム・マネジメント促進の一助になることを願っております。

また、研究同人として、本校の教師のみならず、生徒や保護者、コラボレーションしていただいた自治体や企業の皆様も掲出させていただきました。カリキュラム・マネジメントは学校を取り巻く全ての皆様のおかげでなし得るのだ、との思いからです。

手引きに示した事例にはまだ多くの課題が残っております。今後も子どもたちと共に、多くの実践を通して洗練し、更なる提案をして参ります。ご批正のほどよろしくお願い申し上げます。

福岡教育大学附属小倉中学校 研究同人

INDEX

はじめに | 1

I 章 カリキュラム・マネジメント理論編 | 3

- Q1 「カリキュラム・マネジメント」って? | 5
Q2 なぜ、小倉中では要素①：教科等横断を重視するの? | 6
Q3 そもそも、カリキュラム・マネジメントはなぜ必要なの? | 7
Q4 カリキュラム・マネジメントは、どのように進めればいいのか? | 8
Q5 カリキュラム・マネジメントは、どのように進めればいいのか? その2 | 10
Q6 どうすれば、ホンモノの学習をデザインできるの?(課題設定) | 11
Q7 教科等横断的学習はとても興味深いけど、どこから手を付けたら… | 12
Q8 こうした横断的な学習の評価って、どのように捉えたらいいのか? | 13
Column: カリキュラム・マネジメントのためのチェックリスト | 14

II 章 カリキュラム・マネジメント実践事例 | 15

- 事例1 情景や心情を伝える俳画の表現(類型2:主従関連 中学3年) | 17
事例2 私たちのまち：北九州市の持続可能性(類型6:現代的な諸課題関連 中学3年) | 18
事例3 日本の伝統や文化を学ぶ意義とは(類型2:主従関連 中学1年) | 20
事例4 北九州市の産業観光を盛り上げよう(類型6:現代的な諸課題関連 中学2年) | 22
事例5 企業の特徴をキャッチコピーで表現しよう(類型4:総合的な学習の時間関連 中学1, 2年) | 24
事例6 私たちのSDGs(類型2:主従関連 中学3年) | 26
事例7 グローバルな社会を生きていくために大切なこととは(類型3:道徳科内容項目関連 中学3年) | 28
事例8 身体の動かし方のコツを探ろう(類型1:合科 中学3年) | 30
Column: 対話型論証による深い学びを | 31

III 章 カリキュラム・マネジメント Q&A | 33

- Q1 どうしても授業時間が足りなくなりそうです… | 35
Q2 教科等横断的学習の計画をどのようにしたら良いでしょうか? | 36
Q3 総合的な学習の時間との区別がよくわかりません | 38
Q4 ガチな学びのための、外部の方との連携をどのように… | 39
Q5 評価をどのように考えたら良いでしょうか?(学習のための/としての評価) | 40
Q6 評価をどのように考えたら良いでしょうか? その2(卒業生への追跡調査から) | 42
Q7 学力や教科の学びの質を担保できるのでしょうか? | 43
Q8 指導計画が立てられず、行き当たりばったりになりませんか? | 44
Q9 教科等横断的学習のイメージがわからない… | 46
Column: コロナ禍でも、コロナ禍だからこそカリキュラム・マネジメントを! | 47
Column: 附属小倉中学校の学校研究 | 48

本校3年間のカリマネ研究における主な参考文献 | 49

おわりに | 50

お世話になった先生方、研究同人 | 51

カリキュラム・マネジメント

理論編

Q1 「カリキュラム・マネジメント」って？

Q2 なぜ、小倉中では要素①：教科等横断を重視するの？

Q3 そもそも、カリキュラム・マネジメントはなぜ必要なの？

Q4 カリキュラム・マネジメントは、どのように進めればいいのか？

Q5 カリキュラム・マネジメントは、どのように進めればいいのか？その2

Q6 どうすれば、“ホンモノの”学習をデザインできるの？(課題設定)

Q7 教科等横断的学習はとても興味深いけど、どこから手を付けたら…

Q8 こうした横断的な学習の評価って、どのように捉えたらいいのか？

Column：カリキュラム・マネジメントのためのチェックリスト

Q 1

「カリキュラム・マネジメント」って？

A

中学校で、令和 3 年度から全面実施となる新しい学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程で汎用的な資質・能力の育成」実現を目指すうえで、「カリキュラム・マネジメント」が学習指導要領解説 総則編において次のように盛り込まれました。

各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

（『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編』2017 年、40 頁。）

これは、要約すると次の 3 点となります。

- ① **教科等横断**する学ぶ意義・・・教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を
教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ② 教育課程の **評価・改善**・・・教育課程の 実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- ③ **人的・物的体制の整備・活用**・・・教育課程の実施に必要な 人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

本手引きでは、この 3 点を「カリキュラム・マネジメントの 3 要素」と呼ぶことにします。3 要素はどれも重要なものですが、とりわけ本校では**要素①：教科等横断**を大切にしています。その理由は、次の Q で取り上げます。

Q 2

なぜ，小倉中では要素①：教科等横断を重視するの？

A

「カリキュラム・マネジメント」という言葉を聞くと，どうしても「マネジメント」の部分に意識が向きがちです。そこを強調してしまうと学校経営，すなわちカリキュラム・マネジメントとは，学校管理職のなすべきこと，と解されることが多かったのではないのでしょうか。白梅学園大学の無藤隆氏は，カリキュラム・マネジメントの要点として「授業，ひいてはそのまとまりとしての単元の目指すところの吟味」を第一に挙げ，学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で，必要な教育の内容を組織的に配列していくことの重要性を述べておられます¹。

また，学級担任制が主流の小学校とは大きく異なり，教科毎の免許状を有する教師による教科担任制度を取っている中学校や高等学校では，この「吟味」「組織的な配列」といった点が十分ではありませんでした。本校でもこの点を反省し，まずは，**全教師**で要素①を念頭にカリキュラム・マネジメントの構想を進めていこうとしているところです。

ただ，要素②や要素③ももちろん大切であることには変わりはありません。要素①：教科横断を実施していく上では，要素②による評価，改善が当然必要になってきますし，要素①，②を円滑に実施しようとするれば，要素③の様々な教育資源を投入する必要性が出てきます。特に，リアルな学びを目指せば目指すほど，学校外の自治体や企業，団体の方との連携は必須となります。そこで本校では，現実の社会における「**真正な課題**」の解決を目指すべく，「**コレクティブ・インパクト**」による課題解決のアプローチを重視しています。こちらについては，また別の項(第3章 Q&A 編 p.38)で触れています。

¹ 無藤氏は次のように述べています。「教科の中の目標を目指すことは，教科教育である以上，当然である。だが，その上で，教科等の関連を図り，教科を超えた結びつきを進めて，未知の事態にも対応できる問題解決の力を養うのである。」無藤 隆 監修『カリキュラム・マネジメントと学校経営』東京教育研究所，2018年，2-3頁。

Q 3

そもそも、カリキュラム・マネジメント はなぜ必要なの？

A

私たちは、平成 29 年 3 月の学習指導要領改訂について、変化の激しい未来社会を見据え、今後の新たな教育を方向付けたとても大きな改定であると捉えています。これまでの知識・技能といった内容や、思考力・判断力・表現力などを習得したか(=コンテンツ・ベースド)といった「学力」を目指した教育課程から、習得した学力を未知の学びや生き方に有意義に活用できるか(=コンピテンス・ベースド)、「資質・能力」基盤へのシフトが行われたからです。端的に言うと、「社会に開かれた教育課程」において〈新しい能力〉²としての資質・能力育成が学校教育における目標となりました。

この〈新しい能力〉とは、1990 年代以降、日本では特に 2000 年以降に様々な形で提唱されるようになった能力の総称です。とりわけ、OECD-DeSeCo プロジェクト(1997-2003)における「人が特定の文脈において、自らの内的構造(認知的・非認知的側面)を結集して要求に応答する能力」としてのコンピテンス概念の再定義、及び 3 つのキー・コンピテンシー(= **対象世界**: 道具を相互作用的に用いる / **他者**: 異質な人々からなる集団で相互に関わり合う / **自分**: 自律的に行動する)が強く反映されたものです。

こうした能力の特徴として、京都大学の松下佳代氏は、「要素的・脱文脈的アプローチ」から「統合的・文脈的アプローチ」への転換を指摘しています。能力を構成する要素は個別に分けられることなく「総合力」として結集されています。さらにそれは現実と切り離し一般化されたものでなく、対象の置かれた文脈によって変化する現実の状況に応じて発揮される力なのです。

よくよく考えてみれば、世の中、そしてそこに立ち現れる様々な課題は教科に分かれて存在しているわけではありません。ということであれば、学校での学びも教科の縦割りに留まることなく、課題に対して子ども達が様々な知識・技能、見方や考え方を総動員して解決を目指していくものでなければなりません。より **ホンモノの(真正な)学び** を目指す上で、カリキュラム・マネジメントは必然と言えるのです。

² 松下佳代(2010)『〈新しい能力〉は教育を変えるか-学力・リテラシー・コンピテンシー-』ミネルヴァ書房

Q4**カリキュラム・マネジメントはどのように進めればいいのか？****A**

教育課程は、何よりも子どもの成長のためにあります。従って、カリキュラム・マネジメントもそのために機能しなければならないことは改めて述べるまでもありません。ただ、子どもの成長、あるいは学習指導要領の目指す資質・能力育成といってもあまりに抽象的で、何をどうしたらよいか、どこかイメージしづらいですよ。

【本校校訓：「創造実践」の額】

そこで、まずは何よりも、【学校教育目標】を確認せねばなりません。ちなみに本校の場合は「創造的実践人の育成」、校訓も「創造実践」です。第一ステップは、学校教育目標学校経営方針に則って、目指すべき資質・能力を明らかにすることです。

**【CM ステップ1】教育目標：目指すべき資質・能力の具体化**

本校のそれは、「科学的精神を育てる」「素直な心を育てる」「困難に打ち克つ逞しさを育てる」「身体を鍛える」の4つの柱から資質・能力を育てることを目指しています。1947年（昭和22年）の創立以来、脈々と受け継がれてきた本校の使命は、これから先の将来を担うにふさわしい人材の育成において、いわば「不易」として決して色褪せることのないものであることを確認しました。

そして、創造的実践人としての資質・能力を次のように具体的に定義しました。

「我々が生きる社会の今、そしてこれからの問題を捉え、他者との協働を通じて、知識や技能を活用して思考・判断し、解決を目指す力」

これを踏まえて本校では、資質・能力を、いわゆる「創造性」を中核として説明しています。「創造性」とは、「人まねではなく新しいものやアイデアを自

分からつくり出すこと」,あるいは「新しく価値のある着想を生み出すこと」といえます。

我々人間の文化は、眼前の問題に対して、知っていることから工夫を凝らしたり、新たな知や方法による解決を図ったりすることを繰り返すことによって、発展し受け継がれてゆくものです。たとえ、迫り来る問題は時代により変化しても、それを創造性の発揮によって克服する営みは不変です。本校では、この「創造性」を学校教育目標・校訓に据え、教育活動を展開してきました。

本校が育成を目指す資質・能力としての
「創造的に学ぶ力」の三つの柱

これをより具体的に
するために、新学習指
導要領に即して、資
質・能力の3つの柱で
整理するとすれば右
の表のようになります。

さらに簡単に説明を
加えてみましょう。

創造的な学びの 知識・技能	創造的な学びの 思考力・判断力・表現力	創造的な 学びに向かう力・人間性
我々が生きる社会のこれまで、そして今を捉え、未来社会の在り方を見出すための知識や学びの意義を理解し、その学びをコントロールするための技能	より良い未来社会の構想に向けて、学習課題を解決するための学びをデザイン・表現・評価し、深化・改善を図る力	未来社会の形成に寄与するために、集団における新たな社会や文化の創造を目指した学びへと主体的に参画しようとする態度とその一員としての自覚

「創造的な学びの知識

・技能」とは、現状を捉え、新しい知をつくり出すことへの理解であり、その方法を示しています。

「創造的な学びの思考力・判断力・表現力」とは、未来に向けて学びを計画、実施し、改善し続けていくための知の活用を指します。

そして、「創造的な学びに向かう力・人間性」とは、こうした学びに対して、社会(他者、集団)との協働による参画を目指そうとするものです。

本校では、このような未来志向で学び、創造し続けるための資質・能力を、学校におけるカリキュラム全体で育てていくことを目指して、マネジメントを行おうとしているのです。

さて、先生方の学校では、どのような**学校教育目標**が設定されているでしょうか。そしてそれを育成すべき資質・能力として**具体化**するとどのようなものになるのでしょうか。是非、職員会議や校内研修等での議論を！

Q5

カリキュラム・マネジメントはどのように進めればいいのか？その2

A

さて、資質・能力の育成にあたっては、学校での教育活動、とりわけ授業において真正な文脈＝リアルな状況のもとでの学びが求められます。こうした学びはどのようにすれば実現できるのでしょうか。

今後の教育課程改訂では、「知っている・わかる」から、さらに「使える、できる」までを目指した、**リアルな学び**が求められています。そのため、現実の状況を見逃した授業のための特殊な状況での学び、あるいは単にテストで記憶再生することを目的に、脈絡のない知識を教師がひたすら注入し、子どもは黙々と覚える、という旧来の授業では、それはなし得ません。

生きて働く力を育成するためには「**真正：Authenticな（ホンモノの）学び**」が必要であり、それは「**真正な（ホンモノの）課題**」に取り組ませることによってこそ実現可能です。この立場に立てば、学習には「子どもが知識や技能を使って、仕事場や市民生活など現実生活の課題と類似した課題に取り組むこと」を要請されることとなります。またここでは、授業と評価は表裏一体、連続した関係として捉えられ、その課題の達成の様相、すなわち**パフォーマンス**によって子どもを評価するものとされるのです。

【CM ステップ2】パフォーマンス課題(評価)の導入

こうした議論から、資質・能力の育成は生徒主体の学びでこそ成立するものであることがわかるでしょう。つまり、学校教育における（広義の）学習指導の概念を、教師が主語である「**指導(teaching)**」から、子どもが主語である「**学び(learning)**」へと大きく転換することが必要で、その観点から学習をデザインしていきます。

【CM ステップ3】「指導(teaching)」から「学び(learning)」へ

Q6

どうすれば、“ホンモノの”学習をデザインできるの？（課題設定）

A

前述のようなホンモノの学びを達成する上では、評価すべき成果を前提に学習活動・内容等を構成するパフォーマンス評価及びその学習課題（以下、「パフォーマンス課題」とする）が有効です。いえ、これこそが大前提になると言い切っても良いでしょう！何よりそれは、これまで特に中学校・高等学校の評価において大きな地位を占めてきた客観テストでは評価しにくい、**統合的な能力**を評価しなければならないからです。

私たちが今、あるいは今後直面する（であろう）様々な問題・課題は、多面的・複合的な要素を併せ持っています。そのためそれらを学校で学ぶ「教科等」の単一の枠組みで切り取ることで、解決できません。資質・能力すなわち「**未来社会において何が出来るようになるか**」を見据えると、現実社会の文脈に沿った真正でリアルな課題に向き合う、すなわち教科等を横断しつつ、リアルな文脈において考察し、解決を目指していく必要があるのです。

従って、教科等を横断するパフォーマンス課題が、設定された学習単位において示され、その解決の表現（＝パフォーマンス）を目指して学習が展開されていかなければなりません。このことはまた、学校教育における学習観・評価観を大きく変えなければならないことをも意味しています。

なお、このパフォーマンス課題は、右の表に示す真正の規準としての3要件が欠かせません。この3要件を意識して、大きな課題を設定（パフォーマンスとして要求）することが大切です。

【真正な課題の3つの要件】

知識の構築	既存の知識を土台として、意味のある知的成果を生み出す。
鍛錬された探究	知識を活用し、深い理解を目指して、洗練されたコミュニケーションを通じて自己の考え方や発見を表現する。
学校を超える価値	実社会における批判的市民となることを目指す。

（田中耕治「学習評価とカリキュラム」日本カリキュラム学会 編『現代カリキュラム研究の動向と展望』教育出版，2019年，223-227頁及びF.Mニューマン（渡部竜也ら訳）『真正の学び/学力』春風社，2017年，33-40頁等をもとに本校研究部が整理しました。）

Q7

教科等横断的な学習はとても興味深いけど、課題設定はどこから手を付けたら…

A

働き方改革の推進も叫ばれる中で、教科等横断的な学習として、ホンモノの・リアルな・ダイナミックな課題を設定することは一筋縄ではいきませんね。誰が、いつ、どのようにそうした学習を提案し、進めていくか。これはとても悩ましい問題です。

その前提として、職員集団が目標（育成を目指す資質・能力像）を共有し、協力的な関係を築いていることが必須ですが、その上で、新たな学習をデザインするための“取っ掛かり”³として、本校では次の6つの類型を考えています。

【教科等横断のための関連づけの類型】

原理	類型	教科等横断の方法
学習内容ベース	①合科型	複数の教科等が関連する内容によって、結びつけられるもの。
	②主従関連型	いずれかの教科等の目標達成のために、他の教科等の内容を関連づけたもの。
資質・能力ベース	③道徳科内容項目関連型	道徳科の内容項目のいずれか（あるいは複数）を中心として設定したテーマに、各教科等を位置づけたもの。
	④総合的な学習の時間関連型	総合的な学習の時間の目標や内容に向かって、各教科等を位置づけたもの。
	⑤学習の基盤となる資質・能力関連型	言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成に向けて、教科等を関連づけたもの。
	⑥現代的な諸課題関連型	現代的な諸課題(健康・安全・食、主権者、新たな価値の創造、グローバル化、多様性、伝統・文化、持続可能な社会など)に対応して求められる資質・能力の育成に向けて、各教科等を関連づけたもの。

①から⑥に向かって、カリキュラム・マネジメントはより難しくなることが想定されます。それは、より大がかりでプロジェクト的な学習となるからであり、そのためにはより多くの教科、それに伴う外部人材の協力等が必要になるからです。各教科の目標や進度、学習内容、そして生徒理解、これらについて少しずつ歩調を合わせ、段階的に実行していくことが現実的でしょう。

さあ、まずは隣の席の先生と数時間の横断から！

³ この類型は、実践を分析評価するものではなく、あくまでも横断的学習をデザインするための起点として機能するものです。複数の類型にまたがることは差し支えありません。

Q8

こうした横断的な学習の評価って、どのように捉えたら良いの？

A

パフォーマンス課題を達成するにあたっては、学び手による「**学習のための評価**」の重要性が主張されています。これは、形成的評価の概念を、教師の指導改善の視点から、学び手の自己調整の視点で捉え直そうとするものです。これら研究成果から、パフォーマンス課題の設定においては、評価による動機づけや自尊心への影響といった「**学習経験としての意味**」(レリバンズ)を担保することが求められます。

すなわち、パフォーマンス課題には、学び手としての子ども自身の生活世界、現実の文脈と乖離することがないように「**現実世界に挑戦している**」という感触を伴うようにしたいのです。なぜならば、それがなければ、目標の明確化・具体化・共有化(P)、活動の実施(D)、成果や問題の省察(C)、改善された活動(A)の「**PDCA サイクル**」を、主体的・協働的に子ども自身に駆動することができないからです。

より具体的には、パフォーマンス課題の遂行においてルーブリックを活用した**学習の自己調整**を行わせたいのです。京都大学の松下佳代氏が資質・能力の理論モデルとして挙げた構成要素「**省察性**」⁴も、生徒自身が自らの学びを捉えることを促している点でこのことを裏付けるものといえるでしょう。

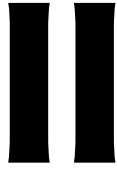
以上は横断的単元を構成する教科＝学び全体にまたがるものですが、もちろん、従来の各教科別の定期テストやパフォーマンステストを否定するものではありません。各教科には、各教科固有の目標、知識・技能、見方・考え方が設定されており、それを達成できたかどうかを放置しては、そもそも学校としての説明責任が成立しません。課題の達成状況に対する学習者(子ども)自身による学習コントロール(学びのPDCA)の状況、そしてその達成状況の測定とをバランス良く行っていくことが必要になりますが、これは必ずしも、毎時間小テストをするとか、チェックリストを作るといったことを意味するものではありませんのでご注意ください。

⁴ 松下佳代氏は、資質・能力の理論モデルとして、「3・3・1モデル」すなわち「3次元(知識・能力・資質)×3軸(対象世界・他者・自己)+省察性(社会の構築と批判的性格を備えたメタ認知と成長的マインドセット)」を提示しています。松下佳代「資質・能力の新たな枠組み-「3・3・1モデル」の提案-」『京都大学高等教育研究』22号、2016年、139-149頁。

Column : カリキュラム・マネジメントのためのチェックリスト

カリキュラム・マネジメントを実践する上で、満たしておきたい項目をいくつか挙げてみました。教科等横断的学習をデザインする際に、参考にしていただければ幸いです。

- 学校教育目標，経営目標の確認
- 育成すべき資質・能力(育てたい子ども像)の具体化
- 子どもや地域の実態分析と課題設定
- 切実感(社会への効果，責任)を伴った(ガチな)パフォーマンス課題の設定
- 6 類型をもとにして各教科の見方・考え方や本質に照らした関連する教科等の設定と，年間指導計画の確認
- 教師による大枠としての学習デザインと評価目標設定
- 学習課題，学習計画，評価目標等についての，学習に関わる全ての方との共有(教師，子どもはもちろん，保護者，地域の人材等)
- パフォーマンス課題の社会的な遂行と評価
- 既存のカリキュラム(年間計画)とのすり合わせ・調整
- 短期的・長期的な学習評価の実行とそれによる学習・授業改善



カリキュラム・マネジメント 実践事例

- 事例1 情景や心情を伝える俳画の表現(類型2：主従関連 中学3年)
- 事例2 私たちのまち：北九州市の持続可能性(類型6：現代的な諸課題関連 中学3年)
- 事例3 日本の伝統や文化を学ぶ意義とは(類型2：主従関連 中学1年)
- 事例4 北九州市の産業観光を盛り上げよう(類型6：現代的な諸課題関連 中学2年)
- 事例5 企業の特徴をキャッチコピーで表現しよう(類型4：総合的な学習の時間関連 中学1,2年)
- 事例6 私たちのSDGs(類型2：主従関連 中学3年)
- 事例7 グローバルな社会を生きていくために大切なこととは(類型3：道徳科内容項目関連 中学3年)
- 事例8 体の動かし方のコツを探ろう(類型1：合科 中学3年)

「情景や心情を伝える俳画の表現」

1 パフォーマンス課題

行事で展示する俳画の情景がより伝わるように、俳句や絵の表現を工夫しよう！（※美術科のパフォーマンス課題）

2 構成教科等

美術・国語

3 各教科等の主な学習内容

美術：俳句や絵の表現を工夫しよう

- ・俳句のルールや学んだ表現方法を使って、印象に残った場面の俳句と、俳句の情景がより伝わる構図や絵と俳句のバランスを考えて、俳画のスケッチを描く。

国語：感動の中心に気づき、五感を使った鑑賞力を身につけよう

- ・作品を読み比べることで、感動の中心に気づき、「五感」を使った具体性のある鑑賞文を書く。
- ・オリジナルドラマを創作して俳句の世界を広げる。

4 学びの実際

美術において文化発表会での作品を作り上げるという目標のもと、パフォーマンス課題を設定し、国語の文学作品の読解を美術で画像化するという技能によってより深化させました。そして、言葉で表現された景色や登場人物の様子を画像にして示すことで、思考力が「かたち」として提示できる学びとなりました。また、俳句の言葉だけでは伝わりにくいイメージや心情を、絵と組み合わせることで視覚的により伝わる表現にできる楽しさを知ることができました。



事例 2

【類型 6 : 現代的な諸課題関連】 中学 3 年生

「私たちのまち：北九州市の持続可能性」

1 パフォーマンス課題

「SDGs 未来都市北九州市」を市民に浸透させるための
図書館展示企画書を提案しよう！

2 構成教科等

社会・理科・道徳科・国語・英語・特別活動(生徒会活動)

3 各教科等の主な学習内容

社会：地方自治と持続可能な社会

- ・他市町と比した北九州市 SDGs 推進における特徴・ストロングポイントの析出

理科：自然環境と人間

- ・北九州市が持続可能な発電方法として採用しているメガソーラー，バイオマス発電，洋上風力発電の実験による再現

道徳科：自然愛護(内容項目：D20)

- ・教科書(東京書籍)「よみがえれ日本海」

国語：相手意識に応じた表現としての「書くこと」

- ・掲示物，図書紹介 POP，企画展示，企画書

英語：多様な市民を対象とした図書館における英語による表現

- ・国語との連携によるコミュニケーションの方法と意義

特別活動(生徒会活動)：SDGs を視点とした生徒会活動の改善

- ・附中キャンパス SDGs，「大地讃頌」合唱に込めた想い

4 学びの実際

本横断学習のスタート時，子ども達は行政担当者から，「中学生の力を貸して欲しい！」と依頼を受け，パフォーマンス課題の設定，そしてその達成のための展示イベントの企画書づくりに取り組みました。

課題を満たすための必要条件として，世界目標としての SDGs や，本市の現状，過

第3学年横断学習 パフォーマンス課題

「SDGs未来都市北九州市」を市民に浸透させる図書館展示企画書を提案しよう！

「開館1周年展示企画のアイデア協力を！」

- ・図書館の機能を踏まえて(情報発信・課題解決・市民参画)
- ・利用者(市民)に向けて
- ・展示期間は12月22日から1月下旬まで

子ども図書館：海田区

SDGs GOALS

- グループで企画書作成
- 図書館蔵書活用
- 優秀企画書を実際に採用！
- 企画書の形式は自由
- 様々な教科の学びを採り入れて
- 企画書提出期限 11月末

「これからの世界をいかにデザインする？」

- ・SDGs 推進都市北九州市
- ・もはや他人事ではない！
- ・学生だからこそできることは？
- ・バックキャスト思考
- ・目の前の課題解決→世界の課題解決に！

北九州市のSDGs推進室：横田氏

去の環境への取り組み，他者により良く伝えるということ，シビックプライド，企画書の様式設計，「誰一人，取り残さない」というSDGs理念に即した市内在住外国人への配慮などの学習があげられ，各教科の学習においてそれらを学び，最終パフォーマンスとして統合することとなります。

その過程で，生徒会長は，この学習を生徒会活動にもつなげることを提案し，当初我々教師が学習デザインとして予定していなかった，特別活動(生徒会活動)もその学びに加わることとなりました。

果たして，こうしてできた企画書は，まさかの「採用ゼロ」に!？それは，企画アイデアが上手く伝わっていない，費用対効果に乏しい，安全面への配慮不足，図書館の機能にそぐわない，といった理由から不十分と判断されたからでした。それは手加減なしの「大人扱いのガチ評価」の結果です。子どもも我々教師もショックではありましたが，こうした評価に接することで，自らの学びの不十分さに多くの子ども達が気づくこととなりました。ここから学びは新たな展開へ向かうことに。

結果的に考案した企画はイベントとしては実現できませんでしたが，修正を施した「企画書の展示」として市民に公開することで，SDGs普及のささやかな一助になったのです。子ども達の“ガチな学び”は，こうして社会へ開かれたのでした。



○評価コメントを読んだ感想，心境，決意など

学校で受ける評価と社会で受ける評価の違いを身をもって知ることができました。企画書の制作全体を通しては、自分達の実力以上に理想が高くて、むしろ内容だけが多く中身のうまいものになってしまったと思います。また、学習を進める中で当初の目的が見えなくなっていたこと、それに気づいていながら軌道修正しきれなかったことも



※本実践は北九州市役所 SDGs 推進室および北九州市立子ども図書館との連携によってなされたものです。記して感謝申し上げます。

事例 3

【類型 2：主従関連】 中学 1 年生

「日本の伝統や文化を学ぶ意義とは」

1 パフォーマンス課題

「歴史体験学習のしおりの頭書きとして、日本の伝統や文化を学ぶ意義を書こう！」

2 構成教科等

国語・保健体育・音楽・社会・数学・道徳科

3 各教科等の主な学習内容(※国語科を中心とした内容関連)

国語：グループ・ディスカッション

・「日本の伝統文化を学ぶ意義」についてグループ・ディスカッションを通して考えの深化・形成を図り、グループ・ディスカッションの良さや活用場面を考える。

保健体育：武道(剣道)

・正しい礼法を身に付ける。残心の訓えとは。

音楽：篠笛

・篠笛の特色に関する知識と技能，日本音階の旋律。

社会：歴史的分野 律令国家の形成

・奈良時代像の構築。古都・奈良の特色ある文化財

数学：平面図形

・円とおうぎ形の計量での学びを生かした和算の考え方。

道徳科：我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度(内容項目：C17)

・教科書(東京書籍)「古都の雅，菓子的心」

4 学びの実際

国語科で「グループ・ディスカッション」の学習をするにあたり、ディスカッションの良さを実感させるために、子どもたちにとって関わりが深く、掘り下げて考えてみたいと思えるテーマを設定したいと考えていました。

そこで学年所属教師で折々話題にのぼっていた歴史体験学習(修学旅行)についてディスカッションができないかと考えました。ただのイベントではなく、日本の歴史や伝統文化にしっかりとふれてほしい。さらには、学ぶ意義を理解して参加することで、受動的な学びではなく積極的な学びにしてほしい、

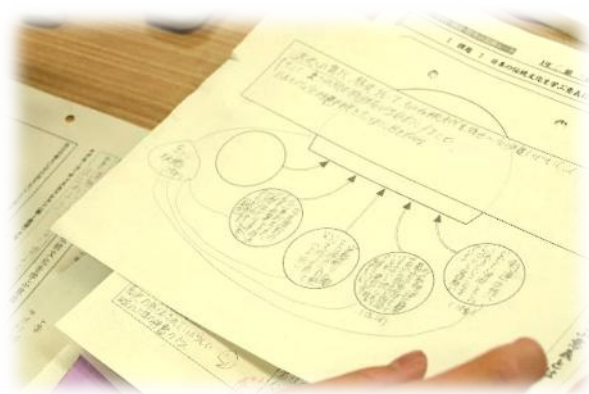
というのが私たち学年所属教師の総意だったからです。

国語科でパフォーマンス課題を設定し、グループ・ディスカッションで考えを広げたり深めたりすることを伝えます。国語科では文字文化（書写）や古文学習を伝統文化について考えを深めるための単元として設定していました。しかし、より多くの「材料」があるほうが考えが深まることを伝え、帰りの学活の前に「国語科での学びや気づき」

「他教科での学びや気づき」「家で調べたこと」を毎日記録させるようにしました。この記録をもとにグループ・ディスカッションに向けて自分の考えをまとめます。思考の整理の仕方やすやすさに応じて思考ツールを自ら選択できるようにしていましたが、一つの命題に対して複数の根拠を述べる「クラゲチャート」を選択していた生徒が多かったことも、複数の教科の学びを生徒たち自身が関連付けられたということだと思えます。本単元では、体育、数学、道徳、音楽、社会という教科で「国語の課題解決のための材料になる」ということは明言せずに日本の伝統文化の理解にもつながる学習を行いました。そのため、上記の教科以外からも気づきを見いだしている姿も見られました。

自らの考えをもとにグループ・ディスカッションを行ったあとの振り返りでは、「一つの明確な答えがあるわけではないときの話し合いに向いている」「自分の気付かなかった視点について質問ができてよかった」など、方法についての良さのほか、「材料が一つしかないと考えが固定されてしまうが、複数の事柄を結びつけると考えが深まったのでよかった」というカリキュラム・マネジメントの効果を実感しているコメントもありました。日本の伝統文化を学ぶ意義を自分なりに捉え直し、歴史体験学習に向けた具体的な展望を描くようになりました。が楽しみになったようでした。

<p>11月6日(水)</p> <p>折り紙で色んな物を折ることが出来る。折り紙はいつから折るのかは知らない。同じのを何個も作って組み立てたりすることができて、おもしろい。</p> <p>美術で土が玉を作りました。新石器時代から人々が大切にしていた。</p> <p>調べる... 世界初は中国から製紙の技術が伝わり、日本へも伝わり、日本人が育ててきた大工紙や和紙を作った。</p>	<p>11月7日(木)</p> <p>道徳が伝統文化についての題材だった。伝統文化を尊重するには、積極的に参加したり、学んだりすることが大切。自分の地域の文化を尊重することが他の地域の文化を尊重することにつながる。</p> <p>数学で和算があることを知った。以前はなかったのかは知らない。</p>
<p>11月8日(金)</p> <p>創道は「のびのび」とすることの大切さ。</p> <p>見のよさを、心と作る。</p> <p>創道には創道他に何かある？</p> <p>また、それはどんな創道？</p>	<p>11月11日(月)</p> <p>＜調べ＞</p> <p>日本の伝統は1,700以上あり。中には藍色、俵巻、摺巻、望巻、にじり巻、茶袋などがある。</p> <p>竹取物語→2017年朝日新聞やあり</p> <p>創道は声、心、うで、こころ、まね、木ね!</p>



事例 4

【類型 6 : 現代的な諸課題関連】 中学 2 年生

「北九州市の産業観光を盛り上げよう」

1 パフォーマンス課題

北九州市産業観光センターからの地域創生についての依頼

- ① 北九州市の新しいお土産のパッケージを創作しよう！
- ② 北九州市に訪れる外国人観光客に北九州の名所を紹介しよう！

2 構成教科等

美術・外国語(英語)・社会・理科・国語



3 各教科等の主な学習内容

美術：テーマを表現するためのマンドラート作成

- ・北九州市の新しいお土産のパッケージを創作

英語：相互評価による話すこと[発表]

- ・北九州市に訪れる外国人観光客を対象とした英語による北九州名所紹介文作成とVTR撮影

社会：身近な地域の歴史

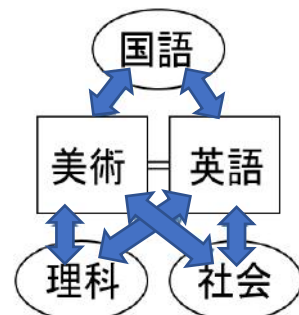
- ・北九州市産業観光遺産から見出す明治維新期の様子

理科：電気エネルギーと電力

- ・夜景を彩る電気器具に蛍光灯やLED電球が多く使われる理由

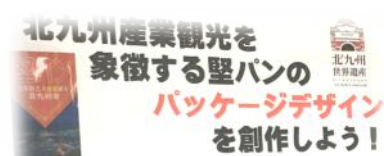
国語：表現の工夫とキャッチコピー

- ・北九州市の産業観光をPRするための説得力のある文を書くための表現の工夫とキャッチコピーの作り方



4 学びの実際

本横断的学習は、総合的な学習の時間における職場体験の際に、北九州市環境コンベンション協会のお世話になり、その縁で北九州市産業観光センターより地方創生の依頼を受けたことで、スタートしました。生徒達が自分達で考えたいくつもの案を産業観光センターの担当者に提案する中で、2つのパフォーマンス課題を設定しました。生徒達は、リアルなパフォーマンス課題によって意欲が高まり、どの教科でもこのパ



パフォーマンスが頭の中に！お土産という実際に形になる，ということと，外国人観光客向けに英語で VTR を撮り提供する，というガチな学びに対し，いつもワクワクしていました。

そのため，それぞれのパフォーマンス課題の達成に向けての支援として各教科で学んだことを蓄積できるように，ラーニングメーターを使いました。色々な授業の中で教科書が混ざり合い，楽しく学び合いながら，このプロジェクトが進んでいきました。途中で，「相手に伝えたり，短い言葉で表現をしたりするためには国語は必須」との声から国語も参加。新聞社に北九州市の産業観光をPRするための投稿を行うための文章も考え始めました。社会や理科や国語の学習が，美術や英語へ生かされていながら，最終的に産業観光センターの職員の方4名をお招きし，ガチのプレゼンテーションを行い，商品化やVTRの活用を検討していただきました。

実際の大人と関わりながら学びを進めていく中で，生徒達は色々なことを学ぶ意義を感じることができていました。ガチなものにはガチで返す。大人も子供も本物は大事ですね。

「パッケージデザイン」マンダラートプリント 2年A組

テーマ「北九州の産業観光産業をアピールするパッケージデザイン」を表現するためのキーワードを置いてアイデアを整理するマンダラートを作成しよう。
①～⑤の書袋のある所に、主要なキーワードを置いてキーワードから連想するイメージや構成要素の工夫をさらに書き出し、スケッチ作成のアイデアを完成させてみよう。

キラキラ	白色	金色	レンガ通り	大観開港	明治時代	茶色	もともとい	羽海湾
イルミネーション	工場	夜景	旧門司	門司港	関いた	青色	環境	クラゲ
光	黒色	血倉山	三井炭末部	門司港	花	緑色	環境	世界の環境
製工業、重工業の煙い煙	八幡	銀色	丸洲鉄道記念館	赤茶色	レトロ	緑色	環境	京都、京都
明治時代	八幡製鉄所	鉄	八幡製鉄所	八幡製鉄所	環境	青色	石けん	白色
日清戦争	赤いオレンジ	溶かしてかきこれる	安川電機	小倉城	ToTo	水色	石けん	キレイ
黄色	青色	英界をリード	和川	茶色	ピンク色	水色	トイレ	白色
エネルギー	安川電機	産業用ロボット	和川	小倉城	茶色、灰色	環境	ToTo	環境に配慮している
創生加納車	機械	銀色	カコイ	武士	赤い	白色	食器類	緑色



英語科

Hallo everyone.
Welcome to Kitakyusyu.
I'll introduce the beautiful night views of Kitakyusyu.
It is selected as one of the new Japanese three major night views.
Here, you can enjoy the night views from both the sea and mountains.

First, these are the views from the mountains.
Mt.takato in Wakamatsu and Mt. Sarakura in Yahata.The observatory commands fantastic views of the whole area of Kitakyusyu.You'll be moved and experience great feelings.

Next, Please look at the views from the cruiser.
Have a cruise around the sea, and you can enjoy beautiful night views of many historical plants and factories.

I hope that you'll have a good time in my city.
Enjoy your trip! Thank you.

美術科

このパッケージでアピールしていること
美しい空や夜景をイメージした星空をバックに若戸大橋・北九州の工業のシンボルのような大規模な鉄橋。
これらの北九州が誇る数々の魅力どころを厳選し、どんなに素晴らしい市が揃って欲しい。歴史ある北九州の産業の軌跡を表現したい。

このパッケージで工夫したこと
・壁パンが見えるように透明にした。
また、建物の影と同化しないよう、夜空から紫を出して輝きを出したこと。
・主張しすぎない優しい甘さであること
を明記し、それだけで製菓所創業当時から食べられていたことを踏まえ、「鉄とどっちが強いかな?」という文でインパクトをつけ、興味を引くようにした。
・夜空はグラデーションにし、パッケージは色ごとにおおむねなりすぎぬよう、気をつけながら、できるだけ多彩にデザインした。

※本実践は，北九州市産業観光センターの職員の方々との連携によってなし得たものです。記して感謝申し上げます。

事例 5

【類型 4：総合的な学習の時間関連，類型 5：基盤となる資質・能力関連】中 1，2 年生

「企業の特徴をキャッチコピーで表現しよう」

1 パフォーマンス課題

1 年生「先月お世話になった地元企業：シャボン玉石けんさんの商品の良さを広く提案しよう！」
2 年生「働く人々の思いを知り，その企業を宣伝しよう！」

2 構成教科等

総合的な学習(キャリア)・国語・道徳科・特別活動(生徒会活動)

3 各教科等の主な学習内容

総合的な学習：キャリア教育

- ・ 1 年生：将来に対する大まかな夢やあこがれを抱く
- ・ 2 年生：働く人々の思いにふれ，勤労の意義を考える

国語：言葉で強い印象を与える表現方法とは

- ・ キャッチコピー
- ・ 表現技法
- ・ 言葉の選択（語感）

道徳科：勤労(内容項目：C13)※1 年生

- ・ 仕事に誇りをもてなかった主人公の姿を通して，「働く」事の意味について議論。（「新しいプライド」(東京書籍「新しい道徳1」）

特別活動(生徒会活動)：附中を彩れ！Tシャツスカイ大作戦

- ・ 保健委員会，学習委員会を中心とした，気化熱により涼を得るプロジェクト

4 学びの実際

本校では夏の暑さを和らげるため，生徒会を中心とした「Tシャツスカイ大作戦」というプロジェクトが実施されました。家庭で不要になったTシャツを濡らして吊るし，気化熱により涼を得るというものです。その後はそのTシャツを寄付しようということで，地元企業であるシャボン玉石けんさんにご指南いただき，環境にやさしい石けんを手洗いを行いました。その過程で企業のこだわりやその思いにふれ，また使うことで実

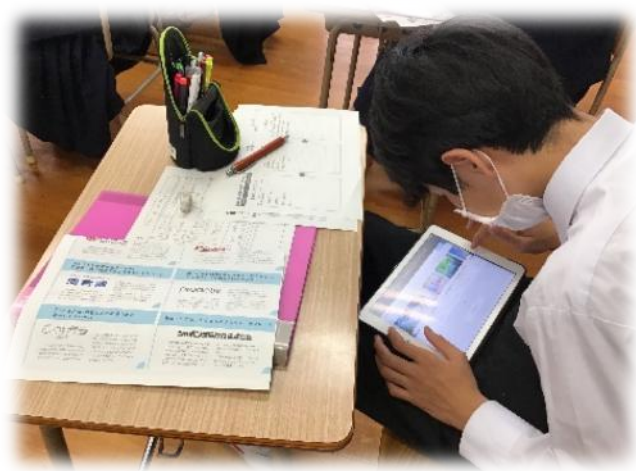


感じました。

1年生ではそのシャボン玉石けんさんの思いや商品の良さを広く提案するため、キャッチコピーを作成し、「宣伝会議賞¹」という公募に応募することにしました。

2年生は、シャボン玉石けんさんの思いにふれたことをきっかけに、この「宣伝会議賞」の課題企業について、その商品や企業理念について調べることで、働く人々がどのような思いで働いているか調べてみることにしました。私たちの生活はすべて働く人々やその思いで成り立っています。調べ学習をした生徒の感想のなかには、「その“モノ”を提供してくれているだけではなく、その“モノ”で嬉

しいとか楽しいとか思える心を提供してくれているということがわかったし、自分もそんな風に信念をもって働きたい」というものがあり、勤労の意義について考えを深めることができました。さらにそれを伝えるための「キャッチコピー」という方法について、1, 2学年とも国語科で表現についての学習を行いました。特に2年生では、本校の入試説明会に向け、「本校の誇りを伝えるキャッチコピー作り」について学習しており、この二つの学びが結びついて、よりよい企業のキャッチコピーを考えることができました。さらに2種類のキャッチコピー作成を通して、「企業のことは学校ほど詳しくないから表現技法は使えても言葉を選ぶのが難しかった。(対象について)よく知らないと作れないものだとわかった」と、キャッチコピーの性質についての気づきを得られた生徒もいました。



¹ 宣伝会議賞ホームページ <https://senden.co>



「私たちの SDGs」

1 パフォーマンス課題

「SDGs169 ターゲットアイコン日本語版制作プロジェクト」に応募しよう」

2 構成教科等

理科・社会・国語・英語

3 各教科等の主な学習内容

理科：地球の明るい未来のために

- ・環境問題やエネルギー資源の活用について科学的に考える

社会科：生産と消費

- ・SDGs17 の目標の中で私たちが億万長者になるためには

国語：キャッチコピーの作り方

- ・他者意識をもって短い言葉で相手に言葉を伝える工夫(表現技法・言葉の選択)

英語：英文の翻訳

- ・国連から出された SDGs169 ターゲットの原文に迫る

4 学びの実際

この学びは、理科授業でのある生徒の一言から始まりました。「先生。朝日新聞



2030年の世界を
君の言葉が変える!

169ターゲットの日本語コピーを作ろう!

にこんなのがあったんですが、みんなでやりませんか？ちょうど理科や社会で関係のあることを勉強してるし。²⁾

そのためには、どんな教科でどんな学びが必要か。ある生徒に問うと、「うーん、まずは理科と社会と国語、そして英語です。」ということで、各教科の

²⁾ 朝日新聞 SDGs169 ターゲットアイコン日本語版製作プロジェクト
<https://www.asahi.com/ads/sdgs169/>



特性を生かしながら、1つの目標に向かって取り組み始めました。

本校では、生徒会が学校内にSDGs17のターゲットをステッカーにして貼る(キャンパスSDGs)などの活動を行っており、常にSDGsを意識した学校生活を送っていましたが、まさか17のターゲットが169個も細かく分かれていることまでは知らないという生徒が多くいました。

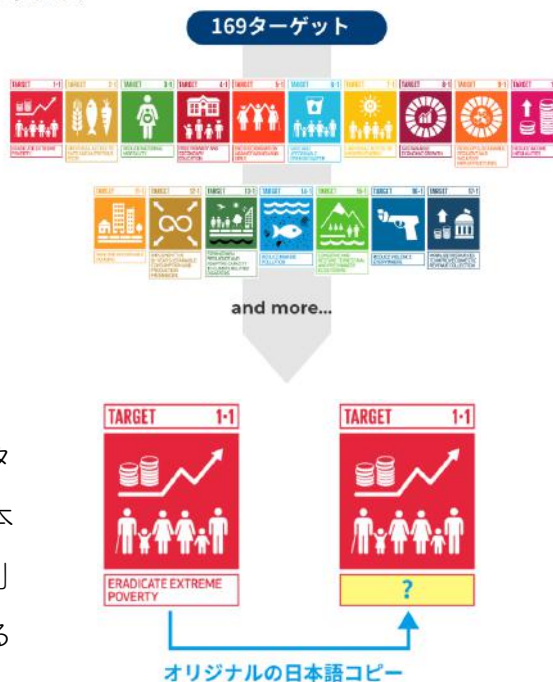
この課題に本当に迫るためには、まずは知ることが大事だと、169ターゲットについて調べ始めました。日本語訳の文章を読んで一言…「難しい…」そこで、国連が出している原文から迫ることにしました。文法はそんなに難しいもの

ではなかったため、英語の授業で、それぞれが協力して分からない単語は調べながら学習を進めていきました。ただの言葉の意味だけでなく、その文が伝えたいことは何なのかを理解するために、理科や社会の授業で学習を行い、学習内容を踏まえて「7エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「12つくる責任 つかう責任」のうちの16ターゲットに絞り、日本語コピーを考えることにしました。国語の時間にキャッチコピーの作り方の手法を学習し、短い文で伝えるための「語を選択するセンス」を高めていき、キャッチコピーを設定していきました。教科を超えることで、国語や英語の時間に、生徒が社会や理科の教科書や学習プリントを開きながら学習を進め、班の中で検討したのちに、学年全体でそれぞれよいキャッチコピーを選択し、応募しました。まだ結果は出ていませんが、SDGsの実践者として新たな学びの第1歩になったことは間違いありません。

どこに教科をつなぐリアルな課題があるかはわかりません。教師も生徒もアンテナを広く張ることが大事だと感じています。

SDGs 169ターゲットアイコン日本版制作プロジェクト

今の子どもたち・学生たちが社会の主役となる2030年。その時、この世界がどうあるべきかを示したのが、SDGs(持続可能な開発目標)です。この参加型プロジェクトは、全国の子どもや若者たちと一緒に、SDGs17のゴールの下に設定された169のターゲットアイコンの日本版を制作します。英語で書かれた原文を読み、その背景を調べ、一人でも多くの具体的な行動につながるオリジナルな日本語コピーを考え応募してください。



事例 7

【類型3：道徳科内容項目関連】中学3年生

「グローバルな社会を生きていくために大切なこととは」

1 パフォーマンス課題

「自国でのオリンピック開催を目前にした今、このグローバルな社会における自らの使命・役割を果たすために必要なことについて、意見表明しよう。」

2 構成教科等(※道徳科内容項目 C：「我が国の伝統と文化の尊重」および「国際理解，国際貢献」を中心とした教科横断)

道徳科，保健体育

3 各教科等の主な学習内容

保健体育：文化としてのスポーツの意義(体育理論)

・スポーツの文化的役割とオリンピックの精神

道徳科：我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度(内容項目：C17)

・「恩送り」(西日本新聞「春秋」2017年1月26日付)を通して，日本の伝統が現代に受け継がれていることの意味を考える。

道徳科：国際理解，国際貢献(内容項目：C18)

・「外国から来た転校生」(映像資料 NHK「ココロ部！」)を通して，他国の伝統や文化を尊重することについて考える。

4 学びの実際

この単元は，道徳科「我が国の伝統と文化の尊重」と「国際理解，国際貢献」という複数の内容項目を関連づけて設定したテーマに，保健体育科の学習を位置づけたところに特色があります。特に，間近に迫った我が国での2度目の夏季オリンピック開催(※平成30年の実践当時は，2年後に開催予定であった。)

は，子ども達にとっても大きな関心事です。こうした状況をパフォーマンス課題につなげ，保健体育+道徳科+道徳科，という3時間の単元を構想しました。

スタートは，保健体育：体育理論の学習です。ここでは，単元の課題を確認した後，「そもそもオリンピックとはなぜ，何のために4年に一度実施さ

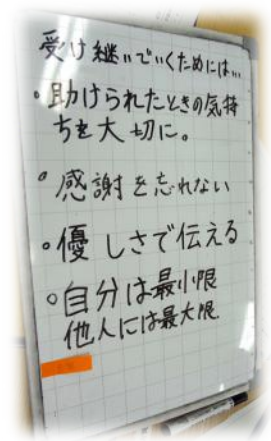


れるのか？」という問いを明らかにしていきま。今や一大イベントとなったオリンピックはどのように生まれ、今日まで続いてきたのか、そしてスポーツが国際親善や世界平和に果たす役割とは何かについて考察し、そこに関わろうとする市民の一人としてのメッセージを作成しました。

このメッセージからキーワードを分析すると、我が国の文化の良さを発信しなければ、という思いを強くしたことがわかります。そこで道徳科1において、「情けは人のためならず」や「恩送り」という我が国の伝統的な観念には、国際交流の場でも人と人をつなげる力があることを議論することとなりました。

最終の道徳科2では、課題探究学習(東京への修学旅行)の際に、行動を共にした外国人との文化や生活に関するとらえ方の違いを思い出しつつ、映像資料による外国人転校生のピアスの是非について、ネームプレートを利用した議論を行います。この議論を踏まえて、来たるオリンピックにおいて、多くの国から異なる文化的背景をもつ人々を迎え入れ国際交流を行うために、自らに課された役割や行動を考えていきました。

「東京オリンピック2020」というビッグイベントを目前に、国際的なつながりやそのための考え方について、一人一人が考えを新たにす単元の学習となりました。



単元テーマ：グローバルな社会を生きていくために大切なことは？

凛 凛とした態度で支え合ったりして、国と国の交流へとつなげてほしい	結 人と人を結び合える機会にする。世界をつなげる。	美 美しい戦い(フェアプレー) 美しい交流(いい文化を感じる) 美しい笑顔(楽しく観戦できる環境)	創 世界の人達とオリンピックを創りあげる。仲間を創りあげる。平和を創りあげる。	越 超越する。越える。体・技・人種・性別
---	-------------------------------------	---	---	--------------------------------

日本から世界の人々に送るメッセージ

染 世界を平和一色に染める。一人一人の色が染まってオリンピックのカラーができる。	繋 オリンピックを通して世界中の人々が繋がれ、一体となれたらいいなと	協 3つの「力」を「十」というように解読できるから	和 平和の和。和を世界へ発信。とげのないややかな世界	望 平和で仲の良いグローバルな社会への希望
--	--	-------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------

「体の動かし方のコツを探ろう」

1 パフォーマンス課題

保健体育「自己記録更新に向けて『コツ』を見つけよう」
理科「力を上手に使う方法を科学的に考えよう」

2 構成教科等

体育・理科

3 各教科等の主な学習内容

体育：陸上競技 走り高跳び

・リズムカルな助走から力強く踏み切り、より高いバーを越えたり、競争したりできるようにする。

理科：運動とエネルギー(作用と反作用)

・物体の運動における作用と反作用の関係を日常生活と関連付けて考える。

4 学びの実際

生徒から「走り高跳びで高く跳ぶには科学的にどうすればいいのか」という疑問から学びがスタートしました。実際に理科で、台車とおもりを使った作用と反作用の実験から、どうすれば上手に力を伝えることができるのかを考えていきました。理科での科学的思考を体育での技能に活かすことができ、双方の授業での理解の深まりがありました。最終的に、生徒達は体育で他の陸上競技や水泳等でも同様に生かせそうだと感じていました。生徒が教科間のつながりを意識しやすく、様々な教科を横断して考えることの良さを感じることができる実践でした。

生徒の記述より

両足が上がるように地面を強く踏んで、反発を利用する。
助走の勢いを踏み切りのときに上に飛び力に変換するイメージ。
・床をグッと押し返すように強く踏み、床からの反発を利用して跳ぶ。

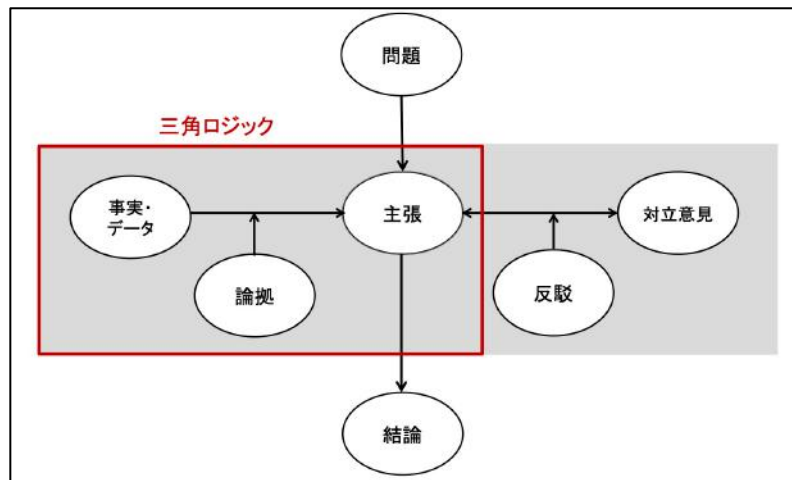


Column : 対話型論証による深い学びを!

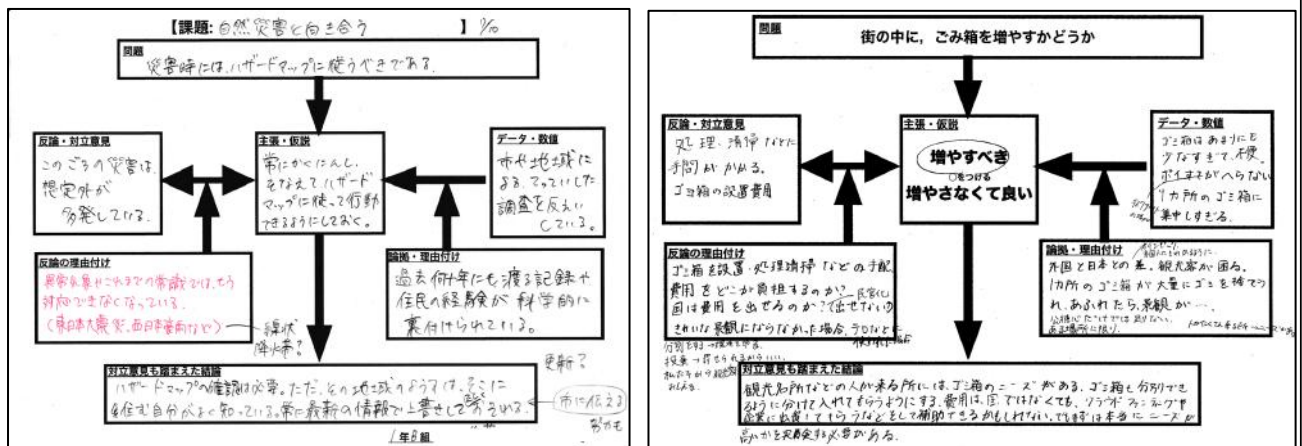
社会とつながるリアルな学びとは、教科に根ざしつつも、教科の枠を超えた探究活動を積み重ねていくものです。その上で、松下佳代氏は、未来の社会と自分の人生の創り手となるための基礎を身につけることを目標とし「対話型論証モデル³⁾」を推奨しています。

このモデルでは、ある問題に対して、他者と対話しながら根拠をもって主張を組み立てる活動を通して、学びを深めることが意図されます。こうしたツールを活用し、リアルな課題解決としての“ガチな主張”，そして“ガチな学び”を、すすめていきたいと考えています。

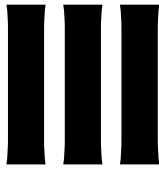
【松下による「対話型論証モデル」】



【対話型論証の事例】



³⁾ 松下佳代(2017)「科学教育におけるディープ・アクティブラーニング」『科学教育研究』41巻2号, 77-84頁, および 同(2019)「深い学びを促す対話的論証」新潟大学教育学部附属新潟中学校研究会編『「主体的・対話的で深い学び」をデザインする「学びの再構成」』, 東信堂, 2-5頁。



カリキュラム・マネジメント

Q&A

- Q1 どうしても授業時間が足りなくなりそうです…
- Q2 教科等横断的学習の計画をどのようにしたら良いでしょうか？
- Q3 総合的な学習の時間との区別がよくわかりません
- Q4 ガチな学びのための、外部の方との連携をどのように…
- Q5 評価をどのように考えたら良いでしょうか？(学習のための/としての評価)
- Q6 評価をどのように考えたら良いでしょうか？その2(卒業生への追跡調査から)
- Q7 学力や教科の学びの質を担保できるのでしょうか？
- Q8 指導計画が立てられず、行き当たりばったりになりませんか？
- Q9 教科等横断的学習のイメージがわからない・・・

Column：コロナ禍でも、コロナ禍だからこそカリキュラム・マネジメントを！

Column：附属小倉中学校の学校研究



Q1

「教科等横断学習を行おうとすると、どうしても授業時間が足りなくなりそうです…」



A

研究授業を計画して、周到的な学習計画を立ててみたけれど、予定していた以上に時間がかかってしまって、大幅に時間オーバーしてしまい、計画の変更を余儀なくされてしまった・・・という苦い経験は、皆さんお持ちではないでしょうか。特に今年度(令和2年度)は、コロナ禍という未曾有の事態により、臨時休校や分散登校、オンライン授業等の対応が迫られ、例年以上に授業時数確保への心配をすることとなりました。

たしかに、壮大な課題達成のためには、相応の時間が必要となります。だからこそ、単一教科の時数だけではなく、複数教科の時数を組み合わせて、学びの質と量の充実を目指さなければなりません。例えば、関西への修学旅行にあわせて、学級活動で集団づくりをする、道徳科で伝統・文化を取り上げる、社会科では奈良・平安時代の学習、英語科で外国人旅行客との質問を考える、などは多くの学校で行われていると思いますが、考え方としては、同じです。

目標や内容、タイミングを調整することによって、教科間で重複する学習を束ねたり、問題意識を連続させることで学びの質を高めたり、といった効果が得られるのです。結果として、授業時数の削減につながる例も少なくありません。

学習指導要領は、学習目標や学習内容を定めていますが、学習の順序については、多くの場合規定していません。年間を通して、未履修の単元が出ることはあってはなりませんが、順序を入れ替えて実施時期を調整する(合わせる)だけでも、よりよい効果が得られます。教育課程が変わる今、まずは各教科の年間指導計画を、大きな学校行事中心に再検討することは、着手しやすいでしょう。

ちなみに、「ガチな学び」を目指す本校では、これらに加えて、課題設定そのものに、切実性や当事者意識を持たせることで、学習を促したいと考えていますので、基本的には、一度つくった課題を、毎年度、ある学年のある時期に実施する、ということはあまり想定していません。課題の“鮮度”を大切にするためには、その年その年のマイナーチェンジも必要です。

Q2

「教科等横断的学習の計画をどのようにしたら
良いでしょうか？他教科との兼ね合いを考
えて、時間も無いし、何だか難しそうです…」

A

当然ながら、中学校での教科等横断的学習は、一人の教師では実現
できません。2教科での連携であっても、絶対に打ち合わせは必要に
なりますよね。学校現場での働き方改革が求められる中で、どのように協働
を実現するかは、乗り越えなければならない大きな壁と言えそうです。

本校の場合は、週に一度、学年会が設定されています。その場で、様々な話
題について議論する中で、教科等横断的学習についても取り上げます。ただ、
授業は毎日ありますので、例えば、授業者の入れ
替わる授業と授業の間の
タイミングを見計らっ
て、板書を確認しながら
簡単な打ち合わせしたり
(写真)、某コミュニケー
ションアプリ(次頁)等を
使用して、担当の授業の
進捗状況や生徒の様子を
交流したりすることも有
益です。



いずれにしても、他教科のことを話題にするとか、他教科ではどのような
学習をしているか、に教師同士が関心を持つようにしなければ成立しません
ので、まずは学習の「内容」が近い教科同士の連携(p.12の種類の1や2)
に取り組んでみることをオススメしています。その上で、種類の3~6といっ
た、資質・能力の育成で互いを結びつける学習に進めていければ、と思いま
す。まずはやってみる、が大切です。

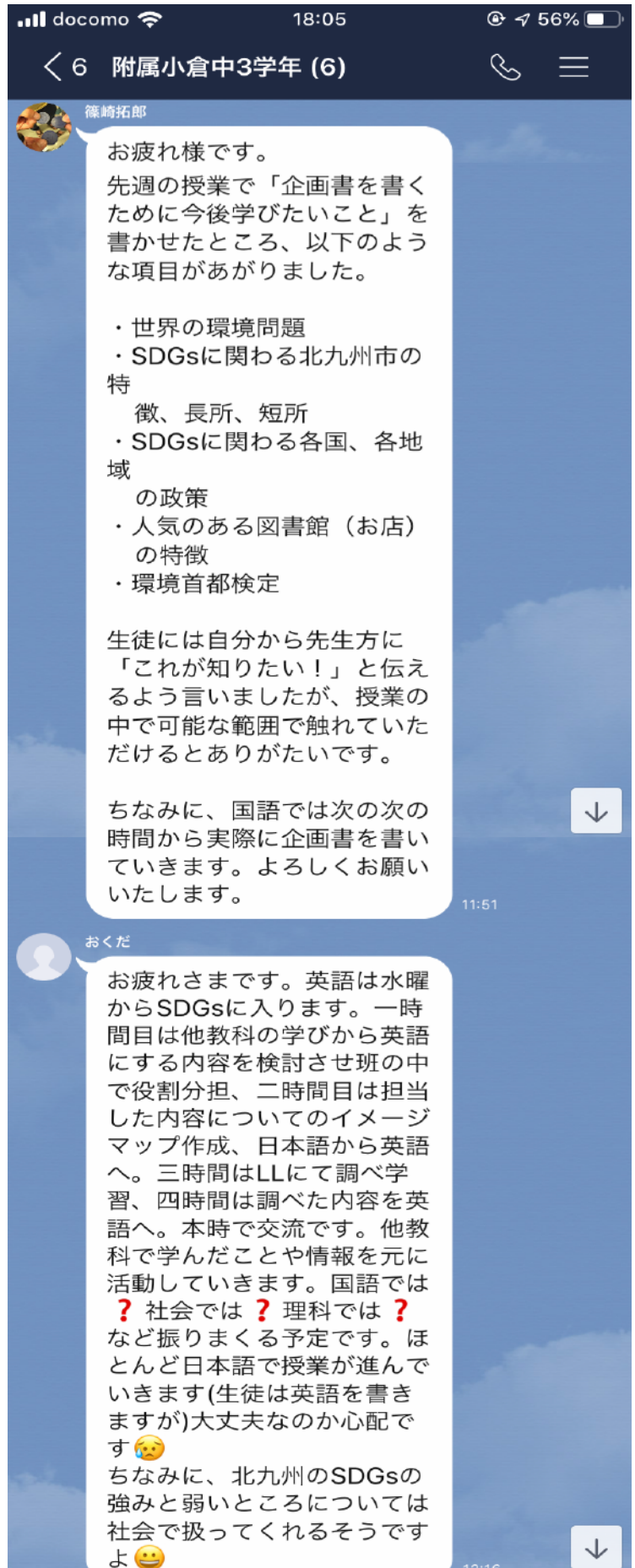
その際、大がかりになればなるほど、「その教科で何をしなければならない
か？」=教科固有の目標や見方・考え方、がぼやけてくることがありま
す。複数の教科による横断的な学習で目指す目標は一つであっても、**教科ご**

との役割や目標は異なりますので、それをこそ役割分担できるように計画していきたいものです。互いの教科の強みを生かして補い合うことでリアルな学びを目指すこと、これこそが、教科等横断的学習によるカリキュラム・マネジメントの最大のメリットです。

なお、こうした取組が進むことは、若い先生方が現場が増えてくるこれからの状況下においては、OJT(On the Job

Training)の観点からも有益です。教師としての教育観や指導方法の交流はもちろん、自身の専門とする教科ではない他の教科の学習内容や学習方法に対して、子ども目線から素朴に質問したり、新しいアイデアを出したりすることで、授業の幅が広がります。

本校でも、多様な年齢層の教師が協働することで、若手にとってはもちろん、ベテランにとっても貴重な学びの機会、新しい授業の創造の場となっています。





Q3

「総合的な学習の時間との区別がよくわかりません。」



A

本校では、カリキュラム・マネジメントによる教科等横断的な学習を、あえて総合的な学習の時間だけで行うことをせず、各教科等の授業によって実施しようとしています。(p.12における類型4の場合は、総合的な学習の時間も横断的学習のデザインに含みますが、それ単独でプロジェクトを遂行しようとはしていません。例えば、p.24の事例5を参照下さい。)
それは次の2点の理由によります。

第1に、今次改訂では、教科等横断的に資質・能力を育むという方向性が強調されていることです¹。カリキュラム・マネジメントの3つの要素は学校の全ての授業、全ての職員、そして教育資源の連携、関連、協力によって成立することを意識しなければなりません。

第2に、本校で実施していた総合的な学習の時間における学習を見直し、各教科固有の学習内容・方法の学びとの両立を図るためです。総合的な学習の時間は、平成10年版学習指導要領で創設されて以来、今日で言う資質・能力育成を目指してカリキュラム・マネジメントを行うことを求めてきました。それは例えば、合科的・関連的な指導や、横断的・総合的かつ探究的な学び、より良く課題を解決する、といったキーワードにあらわれています。

しかし、計画が固定化された探究の学びは、学び手である子ども達にとっては、レールの敷かれた線路を歩むような予定調和(非ガチ)となってしまう、目標を果たし得ません。キャリア教育的側面を色濃く打ち出す職場体験や福祉体験といった活動が、本当の意味での子ども達の探究になっていたかどうかを見直そうと考えました。また、p.33やp.45で述べたような、**授業(時数)のスリム化**も目指したのです。

本校ではこれまで、各教科の本質や固有の役割(見方・考え方)についての研究を重ねてきたこともあり、それらの上に立って、より自由度の高い枠組み(年度初めの計画だけに拠らない柔軟なマネジメント)で、連携する道を探っていこうと考えています。

¹ 中学校学習指導要領第1章第1の4「カリキュラム・マネジメントの充実」



「“ガチな学び”にするためには、外部の方の協力が不可欠だと思いますが、どのように連携すれば良いかわかりません。」



本校では、“ガチな学び”として、現実の社会との接点を大切にしたりリアルな学びをめざしています。これは、「何を知っているか、何ができるか」はもちろんですが、「知っていること・できることをどう使うか」、そして「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか」までを資質・能力として育むために必須です。教科書を読み、教師が解説する、という旧来の学習だけではなし得ないのです。（もちろん、このような学習が全て不要というわけではありません。）

教室を超えたホンモノの学び。それは大人が社会で行っているような課題への挑戦です。そうになると、教師の手に負えない部分が出てきます。カリキュラム・マネジメントの視点③は、「ヒト・モノ・コト」でした(p.5)。ここに教室や学校を超えた人々との協働(共同・協同)として、外部人材活用のポイントが示されています。

近年、複雑な社会的課題解決のためのアプローチとして、「コレクティブ・インパクト(Collective Impact 以下, CI)²」という考え方が提唱されています。CIは、「立場の異なる組織が、その壁を越えて互いの強みを出し合いながら協働し、ある社会的課題を解決するためのアプローチ」と定義されます。今日の複雑かつ多様な社会問題、例えば、本校が位置する北九州市がその取り組みを推進しているSDGs達成などは、異なる立場・組織間の連携が欠かせません。ゲストティーチャーとして学校にお招きしてお話を伺うことに留まらず、課題達成に向かう“同じチーム”としての社会的な協働を目指すのです。このことは、「社会に開かれた教育課程」としても意義深いと言えます。

校区内の様々な方や企業、自治体との連携による学習の構想は、学校単独ではなし得ない新たな視点の獲得や、思わぬ学習効果を生み出すことは間違いありません。まずは子ども達や保護者の方から地域の情報を教えてもらい、先生方が足を運んでみる、というところからはじめて、独自の連携を行ってみてください。先方も、子ども達や学校との関わりに期待していただけることが多いはずですよ。

² デイヴィッド・ピーター・ストロー(2018)『社会システムのためのシステム思考実践ガイド』英治出版



「教科等横断的学習の評価をどのように考えたら良いでしょうか？(その1)」
(学習のための評価／学習としての評価)



評価についてのご質問を受けることが多くなっています。それだけ、このような学習での評価への心配、難しさがあるからだと思います。

そもそも、**教育における評価**は次のように定義されます。

「教育評価とは、教育活動にかかわる意思決定の資料として、教育活動に参加する諸部分の状態、機能、所産などに関する情報を収集し、整理し、提供する過程である」

東洋(1979)『子どもの能力と教育評価』東京大学出版会 pp.95-116

何よりも評価という営みは、最終的に子どもを伸ばすためのものであり、そのためのあらゆる情報の収集、整理、提供を指しています。学校では、「**評価**」＝「**評定**」(ABC や 12345)をどうしてもイメージしがちですが、もっと広く捉えなければなりません。

新しい学習指導要領では、総則編に「**学習評価**」という用語が登場しています。

この学習評価については、

- point1 生徒の学習改善につながる
- point2 教師の指導改善につながる
- point3 必要性・妥当性から見直しをはかる

という点に注意が必要です³。すなわち、「評定」のように、[教師→生徒]のみならず、[生徒自身]、[生徒→生徒]、あるいは場合によっては授業評価などの[生徒→教師]も必要になってくるかもしれません。また本校では、授業協議会にも生徒の参画を試みています(写真は令和元年度研究発表会協議会の様子)。



³ 平成 31 年 3 月 29 日付 30 文科初第 1845 号 文書より。

教師がプロデュースする子どもが主役となる学びの実現に重きを置くと、

「子どもが自らの学びをスムーズに進めることができるかどうか」もみて

いかなくはなりません。それによって、「学習のための評価/学習としての評価」として、

形成的評価を捉え直すこととなります。本校では、授業時に「学びのセルフ評価」

「ラーニングメジャー(Learning Measure)」 「ラーニングメーター

(Learning Meter)」といった呼称で生徒自身が記述していく評価の形があります。このような新しい評価の方法も、横断的な学習の一部として積極的にとり入れていきたいものです。

もちろん、従来のペーパーテスト(定期テスト、小テスト)や、レポート、作品なども評価のためには必要となるでしょう。ただ、そこでも、暗記した知識の量のみでなく、設定された場面での活用を問うような問題や、表現方法の工夫などを組み込みたいと思っています。(福岡県公立高等学校入学者選抜学力検査の問題や今年初めての実施となった大学入学共通テストなどでは、すでにそうした場面設定がしっかりと施されており参考になります。)

要は、様々な評価の機能や方法を駆使して、今、ここでの学びを、教師も、子ども自身もしっかりと捉えて、次の学びに生かしていける、そんな評価活動を目指したいと思うのです。

「学習の評価」「学習のための評価」「学習としての評価」の特徴

アプローチ	目的	準拠点	主な評価者
学習の評価	席次、進級、卒業証書などに関する判断	他の生徒	教師
学習のための評価	教師の授業に関する決定のための情報	外的なスタンダードや期待	教師
学習としての評価	自己の学習のモニターおよび、自己修正または自己調整	個人的な目的や外的スタンダード	生徒

(L.M.Earl, Assessment as Learning: Using Classroom Assessment to Maximize Student Learning, Thousand Oaks, CA: Corwin Press, 2003. p.26. 石井英真『現代アメリカにおける学力形成論の展開』東進堂, 2011年, 324頁より引用。)

3年生 学習セルフ評価シート 3月 1組

【パフォーマンス課題】SDG推進都府北九州市を市民に浸透させるための図書館原簿企画書を提案しよう!

課題にむかう各教科等の学習での学びを自己評価しよう。

えんぴつ・赤・青・オレンジ・・・色を変えて記入し、日付を記しておこう。

○課題達成率[100%]とした場合、現時点でのあなたの学習の進み具合は何%くらいですか?

日付(教科)	そのように判断した理由	ゴールに向けて、次の時間でやるべきこと(教科・内容・方法)
11/2 社会 (土)	企画書のアイデアが多すぎて、今後の見直しも分かってきたから。	SDGについてもう少し情報を調べ、読解力のある書き方(国語) 世界状況
11/6 国語 (水)	企画書を書くときの形式がイメージできたから。	図書館と大学とSDG: 企画書の整理
11/9 英語 (土)	図書館と大学に関する関係も調べることができた。また「環境」という関連性もついていた。情報も整理することができた。	図書館と大学とSDG: 企画書(作成)
11/12 社会 (火)	今までの図書館企画内容(考えた)は、水、金、土、授業で北九州市、北九州の環境をどうにかしてあげることができた。	北九州市・環境 → なぜ? 環境(社会)(理科) 土地条件、環境、技術。
11/14 社会 (木)	企画書の主要内容が決まってきたから。図書館原簿企画書を通して市民に何を伝えるべきか目的が明確になったから。	パートナーシップ → 何にする? 地球との連携について
11/16 理科 (土)	情報が必要そうな部分があったから。方向性が決まらず、おぼろげだ。	世界・取り組む → 企画・使用量(水) or 太陽光・普及さ
11/19 社会 (火)	企画書修正	企画書完成
11/20 社会 (水)	北九州市・環境と関係する内容に決めた。	一日で完成させようという目標、企画書
11/20 社会 (水)	3つの企画書とどうにか修正する見直しをできたから。	企画書修正 と特別展の内容の具体的な提案



「教科等横断的学習の評価をどのように考えたら良いでしょうか？(その2)」

※卒業生への追跡調査から



資質・能力は、「今・ここ」の時点で身についた「学力」とは区別し、これからの将来において「生きて働く」知識・技能、「未知の状況にも対応できる」思考力・判断力・表現力、「学びを人生や社会に生かそうとする」学びに向かう力・人間性と捉えます。

Q5でも述べたように、それは知識の量や再生だけでは決して見えませんし、中学校を卒業してからも、先々にわたってどのように生かされたか、が大切なポイントになるでしょう。

そこで本校では、株式会社テクノミックスの「学校安心メール」⁴を利用し、卒業生への追跡調査を行っています。昨年度卒業生へのアンケート調査では、例えば次のような問いに対して、今回は、およそ7割の卒業生が回答を寄せてくれました。

- ①：中学校時代の学びの経験で、今現在のあなたの学びや生活に役立っている、または将来に役立てられそうなこととは、どんなことですか？
- ②：中学校の授業が高校の授業と異なっている点はどんなところでしたか？
- ③：中学校時代の授業で、最も印象に残っているのはどんな授業ですか？

①について

- ・SDGsの普及策についての議論の経験。高校でもやっています。
- ・グループごとにプレゼンテーションしたり発表したりする授業。
- ・実際に社会で活躍している方と関わる授業で、社会に働きかけた経験。

②について

- ・ただ理解するだけでなく、実際に発信(アウトプット)したこと。
- ・決まった答えがない学習だったと思う。
- ・集団での結論を求める学習だった。

③について

- ・計画や企画を立てて、そこに向かって学習を進めること。
- ・先生は何でも教えてくれるとは限らない。

子ども達は、“ガチ体験”の重要性、社会参画の実感を評価しているようです。当時の学びは多くの生徒にとって、有益だったとのことで、何だかホッとしたところでは、我々としては、こうした生徒の「声」を次の学習デザインにまた生かさなければなりません。

⁴ 株式会社テクノミックスホームページ <https://www.tmix.co.jp>





Q7

「パフォーマンス課題によるダイナミックな学習は面白そうですが、果たして学力や教科の学びの質を担保できるでしょうか？」



A

p.34でも述べたとおり、各教科にはそれぞれの目標や内容が設定されており、これらをないがしろにするわけにはいきません。これらを満たした上で、教科等を横断する学習課題(パフォーマンス課題)の解決を目指した学習に取り組まなければなりません。だから、各教科で基本的な知識や技能を教えて、積み上げて、力がついたところで課題を出して、解決を目指す・・・これまではそうした学びを目指してきました。

そこで、あえて反対に考えてみたいと思います。

まず、解決しなければならない課題に出会う(出会わせる)。たとえばこんなストーリーです。「普段はあまり気にもとめていなかった何気ない生活場面の“アノこと”が、実は地域や社会、いや地球全体に関わる大きな問題だ！このままでは未来が危ない。大人になったときに困る！何とかしなければ！」という意識が芽生える。

次に、「でも今すぐ何とかできないし、そもそもよくわからない。」だから、「各教科等の学習で関係することを学んで、解決の方法を探らなければ！」こうなると、教師による「一方的な指導」ではなく、子どもの主体的な「学び」が動き出します(p.10, 11など)。

その際、教師はこうした“学びのストーリー”を想定し、演出していく役割が求められます(「学びのプロデューサー」としての教師)。単元の導入に、数時間かかることもあるでしょう。そして、学びが動き始めれば、各教科の目標や内容、見方や考え方に、子ども達が触らざるを得ないように、促すことも必要です。時にはつまづく子どもに助言を与え、時には褒めて伸ばすことも必要でしょう(「学びのコーディネーター」としての教師)。もちろん、子ども達の知らないことやスキルを、教える(指導する)ことが必要な場面も出てきます(「学びのモデル」としての教師)。学びの段階や場面に応じて教師の役割を演じることが必要となるのです。



「子ども主体の学びは、指導計画が立てられず、行き当たりばったりになりませんか？」



子どもが主役の授業とは、決して子どもの思いっきだけの授業、教師が何もしない授業のことを意味しません。各教科の目標や内容をしっかりと満たしつつ、横断的でリアルな(パフォーマンス)課題に、それぞれの関心や問題意識からアプローチしていく授業を指します。(p.10, 11, 41)

我々教師は、そんな子どもの反応や思考の流れを、可能な限り想定し尽くし、リアルの授業に臨みます。しかし、どんなに想定を尽くしても、主役である子ども達はその枠に収まることはないでしょう。(否、収まるのはむしろ不自然です。)教師の想定を超えてくる学びの姿こそが、ホンモノの学びなのかもしれません。

そこで、従来の教師主体の「**指導案**」から、子ども主体の「**学びのデザイン**」へと改善しました。それは単に名称を変えただけでなく、「**指導案**」＝教師のより良い授業(力向上)のために、緻密な計画を作り、その計画を実行すること、から、「**学習デザイン**」＝子どものより良い学びを目指して、教師は大枠としての目標を捉え、学びの展開に即して個別・グループ別に大胆な学習計画の変更も許容可能なものへ、と授業観を転換したのです。

どんなに想定を尽くしても、教師の枠に子どもを押し込めてしまうのでは、「ガチな学び」とは言えなくなってしまいます。“良い意味”で教師の想定を超えた子どもの学びを引き出したい。これは「放任」、「子ども任せ」とは異なります。場合によっては、前時を受けて急遽本時の授業変更も辞さない。それはより**柔軟な学びのプロデュース計画**なのです。

具体的には、主な問いと生徒が使用するワークシートを示すことで、授業者がゆったりとしたデザインの中で、教科等の目標を踏まえつつプロデュース・コーディネートできるように、そして参観者が子どもの思考や学びの様子に着目しながら検証できるように、を念頭に、なるべく簡便な方法で表現するようにしています。

例) 理科の学習デザインとワークシートの例

6-2 本時の学習デザイン 令和元年 11 月 14 日 木曜日 横断② 公開授業Ⅰ：2 年 A 組, 公開授業Ⅱ：2 年 C 組
授業者 山村 勇太

- (1)構成教科 理科(電流とその利用：電流のはたらき：電力量)
 (2)目指したい子どもの姿
 ○白熱電球と蛍光灯とLEDの消費電力や他のエネルギー変換を調べる学習を通して、現在の夜景を彩る電気の光は多くが白熱電球ではなく蛍光灯やLED電球が使われている理由について科学的根拠をもって説明できる。

(3)展開例

想定する学習活動・内容	教師による学びの支援	P 課題や他教科等の関連
1 横断学習のテーマを確認し、前時までの学習を振り返り、本時の見通しを持つ。	○横断単元のテーマを確認し、これまで各教科で学んだ内容を想起させるとともに、課題達成のために理科の学習で取り組むべきこととは何かを意識させる。	○横断学習テーマを確認する。
パフォーマンス課題：北九州市の産業観光を盛り上げよう！		
2 夜景の写真を見た後、3つの電球を提示し、夜景は主にどの電球で彩られているか予想する。	○身近な夜景写真を見て電気器具を予想することで、学習意欲を高めるとともに、本時の見通しをもたせる。	○美術科・英語科における作品への加筆修正の手助け
めあて：なぜ白熱電球ではなく、蛍光灯やLED電球が多く使われるようになったのか説明しよう。		
3 3つの電球の何を比べたら電球の特徴を調べることができるか考え、実験を行う。	○3つのデータを比較しやすくするために、同程度のW型の電球を準備し、電圧を100Vに統一して実験を行わせる。 ○正確な照度を測定するために、同じ距離や角度で測定し、5回の平均値を測定結果とする。 (iPadのアプリQUAPIX Lite) ○正確な温度を測定するために、測定する場所や時間を統一し、5回の平均値を測定結果とする。 (赤外線放射温度計)	
(想定される内容) ・消費電力(電気エネルギー) ・明るさ(光エネルギー) ・温度(熱エネルギー)		
4 測定結果を表にまとめ、考察を行う。	○測定結果の比較を考察しやすくするために、表にまとめ、エネルギーの変換について視点をもたせる。	
5 まとめとして考察を発表する。	○全体で考察を共有するために、考察結果を画面に提示し発表を行わせる。 ○次年度のエネルギー変換効率につなげるために、電気エネルギーの変換について触れる。また、東芝の発熱電球製造中止に関するニュースにも触れる。	

学習シート⑩(単元3 電流とその利用 1電流と回路 4電流のはたらき C電力量) 2年__組__番 氏名:()

教科横断学習のパフォーマンス課題：北九州市の産業観光を盛り上げよう！

本時のめあて：

必要な情報・比較するものは？測定結果は表でまとめよう。

何を比べたらよいだろうか？必要な情報は？

(測定結果)

	白熱電球	蛍光灯	LED

考察・まとめ



Q9

「教科等横断的学習を実践したり，参観したりしたことがないので，イメージがわからない…」



A

本校平成30年度以後の研究発表会では，同様の構想に基づく様々な授業を提案してきました。研究紀要等にその詳細は示しておりますので，是非ご覧下さい。（※お声かけいただきましたら，各種研修会等でご紹介することも可能です。）また，西日本新聞「教育はいま」⁵では，本校の取組を紹介していただいておりますので，こちらも是非ご覧下さい。

参考までに，本校の横断的学習の授業を参観された先生方の感想をいくつかご紹介いたします。

- ・英語での表現は，他教科での確かな学びがあったからこそ，だと感じた。
- ・子ども主体の学習＝課題を自分事に行っている。
- ・未来志向の学習，単元だった。
- ・日頃授業をしていて，「他教科の既習事項や関連があれば良いのに…」と思うことが多々ある。今回の事例は，まさにそれが実現されていた。
- ・一つの課題に対して，教科を超えて様々な視点から迫る，そんな取組だった。
- ・各教科の足りないところを，お互いに補い合うことができていた。
- ・現実の社会で必要とされる生きた学びのイメージが，生徒の姿としてあった。各教科で統一された指導をしている様子があった。
- ・ワークシートのシンプルさに驚きました。が，そこに一人一人異なる多様なめあて，考えが表現されていることにさらに驚きました。
- ・決して中学生扱いではない，大人顔負け(大人でも無理，大人だから無理?)の課題やプレッシャーに対して，前のめりに学び進めようとする生徒の姿に感激！

是非，多くの学校・先生方に，カリキュラム・マネジメントによる，子どもにとっての“ガチ”な学習を，構想，実践していただきたいと思っております。きっと，一緒になって興奮する，ワクワクする，そんな学習がやみつきになること間違いなしです！

⁵ 西日本新聞 令和元年12月8日付け朝刊
<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/566269/>



Column: コロナ禍でも、コロナ禍だからこそカリキュラム・マネジメントを!

令和2年度当初は、臨時休校に伴って、大幅な学習計画の変更を余儀なくされたことと思います。本校では、そんな中、「学びと成長をとめないプロジェクト」として、オンラインでの学びの継続に取り組みました。オンラインだからドリル学習しかできない、と諦めるのではなく、オンラインだからこそできる学習、オンラインでも資質・能力育成を目指した学習など、試行錯誤を繰り返したところです。(この際のオンライン動画は、YouTube「附中ちゃんねる」で視聴可能です。)

これは、広い意味での「カリキュラム・マネジメント」と言えるのではないかと考えます。現実の状況の中で、いかにして教科や教育の目標を達成するか、効果的・効率的なカリキュラムを模索することは、マネジメントそのものでした。

この取組は、新型コロナウイルス感染症への対応等について、文部科学省が教員養成学部を置く各国立大学の取組の中から特色ある好事例や先進的な取組等を収集し公表した「グッドプラクティス(好事例)」として選定されました。他校の取組と合わせて、是非ご覧下さい。

【福岡教育大学】附属小倉中学校「学びと成長を止めないプロジェクト」

「学びと成長を止めないプロジェクト」を立ち上げ、オンラインツールを活用した支援を実施した。そのうち「子どもの【学びをとめない】取組」では、主に子供の“学習面のケア”を中心に以下に取り組んだ。

○各種アプリの特色を踏まえた多様な学びへの対応(※臨時休校中)

- ・Zoom(みんなで、同時に) ・YouTube(いつでも、何度でも)
- ・ロイノート(先生と双方向で) ・まなびポケット(ひとりでも)

○対面授業とオンライン配信とのハイブリッド方式(※分散登校中)

教室授業(1学級2分割:20人)と在宅オンラインZoom(40人)の同時進行で授業を実施した。対面授業を行う教師1名、オンラインで授業に参加する生徒を支援する教師1名がチームティーチングを行い、分散登校中においても、生徒全員が同質の学びを継続することができた。学習評価についても、複数教師が関わることで、対面授業時における適切な支援を実施することができた。

○教師の在宅での支援の推奨(※臨時休校中)

教師は上記に係る打ち合わせ、教材作成、オンライン授業を在宅で実施した。



文部科学省国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する取組状況について—Vol.3

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1416730_00001.htm

YouTube  / 附中ちゃんねる

<https://www.youtube.com/channel/UCsAEWrwISq3AL1VoKuyP2lQ>



Column : 附属小倉中学校の学校研究

附属小倉中学校では、令和元年度から、学校研究としてのカリキュラム・マネジメントに取り組んでおります。来年度以降も、引き続き同研究を進めていく予定です。

[令和元年度・2年度文部科学省委託事業]

「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

自ら創造的に学ぶ力の育成

～教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる真正な学びのデザイン～

keyword : 資質・能力, カリキュラム・マネジメント, 真正な学び

introduction

なぜ今、自ら創造的に学ぶ力か？

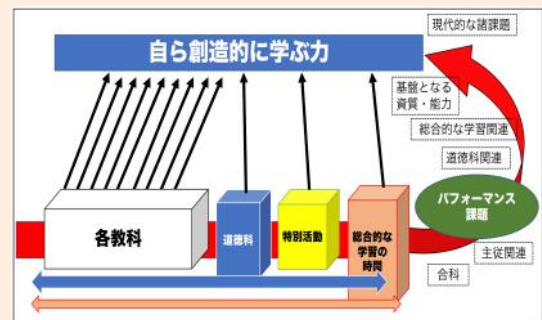
- ・超スマート社会 Society5.0への挑戦
- ・学校ver3.0（「学びの時代」）に向けた学習指導要領の改定
- ・学校教育目標「創造的実践人の育成」



method 1

教科等横断的なカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントによる学習イメージ



history of study

本校過去の関連研究 (特に関連の強いもの)

平成8～10年度

21世紀に生きてはたらく力の育成

～教科・領域を横断する学習活動の工夫～

平成24～28年度

自ら創造的に学ぶ力の育成

～自己調整学習に基づいた循環的な学習プロセスの構築を通して～

平成30年度

自ら創造的に学ぶ力の育成

～特別の教科道徳(道徳科)を核としたカリキュラム・マネジメントを通して～

method 2

真正な学びのデザイン

教科等横断のための関連づけの類型

原理	類型	教科等横断の方法
学習内容ベース	①合科型	複数の教科等が関連する内容によって、結びつけられるもの。
	②主従関連型	いずれかの教科等の目標達成のために、他の教科等の内容を関連づけたもの。
資質・能力ベース	③道徳科内容項目関連型	道徳科の内容項目のいずれか(あるいは複数)を中心として設定したテーマに、各教科等を位置づけたもの。
	④総合的な学習の時間関連型	総合的な学習の時間の目標や内容に向かって、各教科等を位置づけたもの。
	⑤学習の基盤となる資質・能力関連型	言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成に向けて、教科等を関連づけたもの。
	⑥現代的な諸課題関連型	現代的な諸課題(健康・安全・食、主権者、新たな価値の創造、グローバル化、多様性、伝統・文化、持続可能な社会など)に対応して求められる資質・能力の育成に向けて、各教科等を関連づけたもの。

theme of our study

【自ら創造的に学ぶ力】

我々が生きる社会の今、そしてこれからの問題を捉え、他者との協働を通じて、知識や技能を活用して思考・判断し、解決を目指す力

創造的に学ぶ力の三つの柱

創造的な学びの知識・技能	創造的な学びの思考力・判断力・表現力	創造的な学びに向かう力・人間性
我々が生きる社会のこれまで、そして今を捉え、未来社会の在り方を見出すための知識や学びの意義を理解し、その学びをコントロールするための技能	より良い未来社会の構想に向けて、学習課題を解決するための学びをデザイン・表現・評価し、深化・改善を図る力	未来社会の形成に寄与するために、集団における新たな社会や文化の創造を目指す学びへと主体的に参画しようとする態度とその一員としての自覚

paradigm shift

教育(研究)の在り方が変わる・在り方を変える

従前(教授パラダイム)	これから(学習パラダイム)
<ul style="list-style-type: none"> ・指導(teaching) ・教師が何を教えたか？(教師のみの授業協議会) ・学習指導案 ・教室(で完結) ・インプット重視 ・コンテンツ(内容)ベース 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習(learning) ・子どもが何を学んだか？(子ども参加の授業協議会) ・学びのデザイン ・社会(とつながる、そのもの) ・アウトプット重視 ・コンピテンシー(能力全体)ベース
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な学問分野, 教科単位 ・評価(教師の見取り) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学際領域, 統合領域 ・評価(子どもの学びのデザイン)

【参考文献 (本校3年間のカリキュラム・マネジメント研究での主なものを紹介します。)]

- ・浅見哲也(2017)「道徳科における資質・能力の育成に向けた授業づくり」『初等教育資料』2018年7月号 No.969, 26-31頁
- ・東洋(2001)『子どもの能力と教育評価(第2版)』東京大学出版会
- ・天笠茂(2018)「戦略と手法のカリキュラム・マネジメント④」学校教育研究会『学校教育 2018年7月号』NO.1211, 62-65頁
- ・石井英真(2011)『現代アメリカにおける学力形成論の展開』東信堂
- ・石黒広昭編著(2004)『社会文化的アプローチの実際』北大路書房
- ・伊藤崇達(2009)『自己調整学習の成立過程』北大路書房
- ・今谷順重編著(1997)『横断的・総合的な学習とクロスカリキュラム』黎明書房
- ・大村はま/苅谷剛彦・夏子(2003)『教えることの復権』ちくま新書
- ・加藤幸次(2017)『カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方』黎明書房
- ・同 (2019)『教科等横断的な教育課程編成の考え方・進め方』黎明書房
- ・国立教育政策研究所編(2016)『資質・能力』東洋館出版社
- ・佐藤学, 秋田喜代美他編(2017)『岩波講座教育変革への展望5 学びとカリキュラム』岩波書店
- ・J・レイブ, E・ウェンガー(1993)『状況に埋め込まれた学習』産業図書
- ・田中耕治他編(2018)『新しい時代の教育課程第4版』有斐閣アルマ
- ・田沼茂紀(2017)『道徳科授業の作り方』東洋館出版社
- ・田村知子(2001)『実践・カリキュラムマネジメント』ぎょうせい
- ・田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編(2016)『カリキュラムマネジメントハンドブック』ぎょうせい
- ・東京大学教育学部カリキュラムイノベーション研究会編(2015)『カリキュラム・イノベーション』東京大学出版会
- ・永田繁雄編(2017)『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所
- ・西岡加奈恵(2016)『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化
- ・日本教育方法学会編(2016)『アクティブ・ラーニングの教育方法的検討』図書文化
- ・同編 (2017)『学習指導要領の改訂に関する教育方法的検討』図書文化
- ・同編 (2019)『中等教育の課題に教育方法学はどう取り組むか』図書文化
- ・福岡教育大学附属小倉中学校 (1983)『楽しい道徳の授業』
- ・同 (1991)『楽しい道徳の授業 part2』
- ・同 (1995)『楽しい道徳の授業 part3』
- ・同 (2010)『楽しい道徳の授業 part4』
- ・F.M ニューマン (渡部竜也ら訳) (2017)『真正の学び/学力』春風社
- ・P・M・センゲ他(リヒテルズ直子訳)(2014)『学習する学校』英治出版
- ・松下佳代(2007)『パフォーマンス評価』日本標準
- ・同 (2010)『〈新しい能力〉は教育を変えるか』ミネルヴァ書房
- ・同 (2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房
- ・同 (2016)「資質・能力の新たな枠組み-「3・3・1モデル」の提案-」『京都大学高等教育研究』22号, 139-149頁
- ・松下佳代・石井英真編(2016)『アクティブラーニングの評価』東信堂
- ・松本美奈・貝塚茂樹・西野真由美・合田哲雄編(2017)『特別の教科 道徳 Q&A』ミネルヴァ書房
- ・文部科学省教育課程課編(2019)『中等教育資料』NO.997(令和元年6月号), 学事出版
- ・渡部信一編(2017)『教育現場の「コンピテンシー評価」』ナカニシヤ出版

おわりに

「予測困難な時代」，この言葉がまさに実感として受けとられる現在の状況下で，学校で学んだことが，子供たちの「生きる力」となって，明日に，そしてその先の人生につながってほしい。そして，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，判断して行動し，それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そのように願わずにはられません。

新学習指導要領「前文」には次のような理念が掲げられました。「自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」。では，私たちは今何をなすべきか。その切実な問いが突きつけられています。

このたび文部科学省の委託研究として学びの機会をいただき，失敗を恐れず実行することを目標にチャレンジを続けた一年次。そして二年次はコロナ禍と重なりました。コロナ禍はまさに直面する課題そのもの。今こそ社会課題に目を向けさせ，事象を関連づけたモノの見方ができる子どもたちを育てなければならぬことを痛感しながらの一年でした。今ここに二年間の実践研究のささやかな成果を，「手引き」としてご提案いたします。本校の研究をより多くの方にわかりやすく伝えるためにコンパクトなものにいたしました。その分，細かい部分を十分伝えることができていないかもしれません。今後も研究をさらに進め，成果を随時発信していく予定ですので，忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

結びになりましたが，本研究にあたり二度のご講演をいただいた京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代 様，指導助言としてご指導賜りました，福岡教育大学社会科教育ユニット教授 石丸哲史 様，同学校教育ユニット准教授 樋口裕介 様，同教職教育ユニット准教授 坂井清隆 様，そしてカリキュラム・マネジメント検討委員として日頃からご指導いただいている，福岡教育大学社会科教育ユニット教授 豊嶋啓司 様，前芦屋町教育長 中島幸男 様はじめ，教育学部・附属学校共同研究部中等教育研究部，大学の先生方，附属小倉中学校 OB（大樹の会）の先生方，ご後援を賜りました福岡県教育委員会，北九州市教育委員会，そして，運営面で多大なるご支援・ご協力をいただきました本校 PTA 役員・後援会の皆様方に謹んでお礼申し上げます。また，本校の取組にご理解・ご協力いただいた保護者の皆様，ともに歩んでくれた生徒の皆さん，北九州市および関係企業，メディア関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

福岡教育大学附属小倉中学校 副校長 梶原 忠信

ご指導いただいた先生方

京都大学高等教育研究開発推進センター 教授 松下 佳代 様
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 様
大阪府 高槻中学校・高等学校 教 頭 前田 秀樹 様

【カリキュラム・マネジメント検討委員】

福岡教育大学 教 授 豊嶋 啓司 様
前 遠賀郡芦屋町教育委員会 教 育 長 中島 幸男 様

福岡教育大学 教 授 石丸 哲史 様

研究同人(本研究の関係者)

令和2年度在籍者

校 長 片平 誠人 (大 学)
副 校 長 梶原 忠信 (遠 賀 郡)
教 頭 尾中 勇 (中 間 市)
教務主任 日高 慎二 (宮 若 市)
研究部長 柴田 康弘 (飯 塚 市)
研究副部長 山村 勇太 (北九州市)
同 上田 苑加 (田 川 郡)
小樋 杏奈 (北九州市)
元重 雄平 (遠 賀 郡)
奥 恒政 (直 方 市)
三毛門鋼一 (京 都 郡)
古森 亮太 (行 橋 市)
山野 高志 (飯 塚 市)
藤田 政洋 (遠 賀 郡)
永淵かおり (北九州市)
奥田 由美 (行 橋 市)
村上 智美 (北九州市)
養護教諭 山田絵里香
長期派遣研修員 井上 雄太 (直 方 市)
麦田 和寿 (豊 前 市)
北崎 靖生 (北九州市)
三浦 朋子 (田 川 市)
講師等 宮田 史子
豊増 美喜
橋本 充弘
西村 奏音
スクールカウンセラー 君原菜穂子
A L T ガイ・マイケル・オーミストン

(令和元年度在籍者)

服部 一啓 (大 学)
井上 裕介 (福岡県立育徳館中学校)
篠崎 琢郎 (北九州市立菅生中学校)
田中 誠 (北九州市教育委員会)
井嶋 大輔 (飯塚市立幸袋中学校)
中川 広教 (みやこ町立豊津中学校)
郭 晃成 (中間市立中間中学校)
毛利 翔子 (北九州市立南小倉中学校)
安河内和輝 (福岡教育大学附属福岡中学校)

(平成30年度在籍者)

中村 典史 (岡垣町立岡垣中学校)
天野 文 (北九州市立思永中学校)
高尾久美子 (筑豊教育事務所)
杉延 清志 (吉富町外一市中学校組合立吉富中学校)
戸田 英樹 (北九州教育事務所)
松山 祥子 (北九州市立高生中学校)
澤 悦子 (直方市立植木中学校)
穴田 真一 (飯塚市立二瀬中学校)
楠田 一貴 (上毛町立上毛中学校)
平崎 翔太 (岡垣町立岡垣東中学校)
宮原 千穂
足立 弾 (北九州市立湯川中学校)
野口 直子

[special thanks]

福岡教育大学附属中学校生徒の皆さん
福岡教育大学附属小倉中学校保護者会の皆様
北九州市および関係企業の皆様、メディア関係者様

文部科学省委託事業

【これからの時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究】

令和元年度～2年度 福岡教育大学附属小倉中学校

カリキュラム・マネジメントの手引き
-資質・能力の育成に向けたリアルな学習デザイン実現の処方箋-

発行日 令和3年2月22日

発行者 福岡教育大学附属小倉中学校
〒802-0023 北九州市小倉北区下富野三丁目12番1号
TEL 093-541-8621 FAX 093-541-1250
HP <https://kokurajs.fukuoka-edu.ac.jp>
MAIL kuracyu@fukuoka-edu.ac.jp



印刷 NPO法人 わくわーく
〒805-0062 北九州市八幡東区平野1丁目3番2号
TEL 093-671-1221 FAX 093-883-6022

カリキュラム・マネジメントの手引き

福岡教育大学附属小倉中学校 令和3年2月発行



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。